

授業科目	生物学					【講義】	学 科	歯科衛生士学科	
学年	1	学期	前期	単位	2	時間	30	担当教員	榎本 良孝

科目の特徴 (ねらい)	生物や生命現象・自然に対する関心や探究心を高め、生物学の基本的な概念や原理・法則を学ぶ。特にヒトの体の成り立ち、仕組み、働きなどの知識や理解を深めることにより医療従事者としての心構えや能力を養い、歯科医学の基礎となる解剖学、組織学、生理学、生化学などの分野への応用・展開をねらいとする。
成績評価	各分野の理解度を総合的に評価する。100点満点で試験を行い60点以上を合格とする。不合格者については再試験を実施し60点以上を合格とする。

回数	授業内容
1	ガイダンス、生命とは何か
2	生命の誕生
3	生命の変遷
4	生物は細胞からできている(1)
5	生物は細胞からできている(2)
6	細胞の一生と個体の成り立ち(1)
7	細胞の一生と個体の成り立ち(2)
8	生殖によって子孫をつくる
9	遺伝と遺伝子(1)
10	遺伝と遺伝子(2)
11	発生して体をつくる
12	刺激の受容と反応
13	内部環境を保つ仕組み
14	動物の行動と進化
15	講義のまとめ

教科書	歯科衛生学シリーズ 生物学 医歯薬出版株式会社
-----	-------------------------

授業科目	化学				【講義】	学 科	歯科衛生士学科		
学年	1	学期	前期	単位	2	時間	30	担当教員	榎本 良孝

科目の特徴 (ねらい)	歯科医療に携わるために不可欠である科学の基本的事項を幅広く身につけることにより、医療従事者としての心構えや能力を養うことをねらいとする。本授業では、「物質の本性」、「気体」、「溶液」、「酸化還元」、「科学反応」、「有機化合物」、「生体物質」に関する基本的な知識や理解を深める。
成績評価	各分野の理解度を総合的に評価する。100点満点で試験を行い60点以上を合格とする。不合格者については再試験を実施し60点以上を合格とする。

回数	授業内容
1	ガイダンス、物質の分類、物質の構造
2	原子の電子配置、元素の周期律
3	物質量、化学結合
4	気体のルール
5	空気の組成、気体と医療(医療、生活への応用)
6	水溶液の濃度
7	水溶液の性質、コロイド
8	酸とアルカリ
9	酸化と還元、金属のイオン化傾向
10	化学反応速度、価額平衡
11	有機化合物とは、有機化合物の種類、異性体
12	有機化合物の反応、有機化合物の性質、高分子化合物
13	水の構造と性質、人体を構成する元素、糖質
14	アミノ酸とタンパク質、脂質、核酸と核酸関連物質
15	講義のまとめ

教科書	歯科衛生学シリーズ 化学 医歯薬出版株式会社
-----	------------------------

授業科目	臨床心理学					【講義】	学 科	歯科衛生士学科	
学年	1	学期	前期	単位	2	時間	30	担当教員	石岡 れい子

科目の特徴 (ねらい)	<p>1 人間の心理や行動について理解する。特に、患者の不安や悩みに共感できる態度を身につけ、よりよい治療関係を築き、患者の心理状況やニーズ(欲求、願い)に合った援助ができるようにする自分自身の心理と行動を理解する。</p> <p>2 自分の性格や行動、考え方のクセを知り、自己理解を深め、周囲とのよりよい人間関係を築く。また、歯科衛生士としての成長につなげ、仕事のストレスに対処できるようにする。</p>
成績評価	授業中の参加態度、および毎回授業後のレポート提出、終講後の筆記試験

回数	授業内容
1	オリエンテーション
2	1章 見る・聞く・感じるころ
3	2章 学ぶ・覚えるころ
4	3章 やる気の心理
5	4章 喜怒哀楽のころ
6	5・6章 パーソナリティ、かしこさの心理
7	7章 考えるころ
8	8章 発達するころ(1)
9	9章 発達するころ(2)
10	10章 人とかかわる心理
11	11章 人と集うころ
12	12章 健康なころ
13	13章 カウンセリングのころ
14	14章 思いを伝え合うころ
15	15章 障害のある人たちへの歯科治療について

教科書	歯科衛生学シリーズ 心理学 医歯薬出版株式会社
-----	-------------------------

授業科目	外国語 I				【講義】	学 科	歯科衛生士学科		
学年	1	学期	前期	単位	2	時間	30	担当教員	富岡 義勝

科目の特徴 (ねらい)	<p>高校まで勉強してきた英語を5文型という観点からもう一度見直し、英語の一層の理解を目標とします。</p> <p>授業についての注意点: 予習・復習、授業を通じて疑問点は必ず解消するよう努力してください。また、<u>授業には英和辞典持参のこと。</u>(電子辞書可)</p>
成績評価	期末試験(筆記)100%

回数	授業内容
1	イントロダクション
2	Unit1 品詞について
3	Unit2 主語と述語
4	Unit3 Readingを中心に
5	Unit4 SVC(補語について)
6	Unit5 SVO(目的語について)
7	Unit5 Readingを中心に
8	Unit6 SVOO
9	Unit6 Readingを中心に
10	Unit7 関係代名詞について
11	Unit7 関係代名詞の演習
12	Unit8 SVOC
13	Unit8 Readingを中心に
14	Unit9 現在形・現在進行形
15	Unit10 過去形・現在完了形

教科書	<p>スヌーピーと覚える日常表現 株式会社朝日出版社 (* 補足教材は適宜プリントにして配布します。)</p>
-----	--

授業科目	外国語Ⅱ				【講義】	学 科	歯科衛生士学科		
学年	1	学期	後期	単位	2	時間	30	担当教員	富岡 義勝

科目の特徴 (ねらい)	<p>歯科に関する専門用語を英語で学び、歯科衛生士として適切に対応できるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な語彙を学習し、歯科医院で英語によるコミュニケーションができるようにする。 ・英語で口腔衛生指導ができるようにする。 ・書式で使われる英文を読みこなせるようにする。
成績評価	出席・授業態度・筆記試験の成績で総合評価する。

回数	授業内容
1	イントロダクションと、1.Making an Appointment
2	2.Requests for Medicine./3.Emergency Appointment
3	4. National Health Insurance
4	5. Asking Symptoms./6. Medical History
5	7. Periodontal Disease
6	8. Pregnancy
7	9. Cleaning
8	10. Informed consent
9	11. Sealants
10	12. Fluoride Treatment
11	13. Tooth Brushing Instructions for a Child.
12	14. Tooth Brushing Instructions for a Adult.
13	15. Postoperative Instructions
14	16.After Treatment
15	全体のまとめ

教科書	<p>歯科衛生学シリーズ 歯科英語 医歯薬出版株式会社 副読本 5分間 実践英文法(南雲堂)</p>
-----	--

授業科目	解剖学概論 I				【講義】	学 科	歯科衛生士学科
学年	1	学期	前期	単位	2	時間	30
						担当教員	内藤 順平

科目の特徴 (ねらい)	医学・歯科医学の基礎となる人体の構造について学ぶ。歯科臨床において、口や歯の形態を理解することは必須事項である。そして、これらは人体を構成する器官の一部であることから、全身の基本的な形態と構造を理解し、口腔の機能について理解を深めるのが、この科目のねらいである。
成績評価	出席・授業態度・筆記試験の成績で総合評価する。

回数	授業内容
1	自己紹介と心構え
2	序章:解剖学で学ぶこと
3	1章:骨格系
4	2章:筋と運動
5	3章:消化・吸収(意義・構造)
6	3章:消化・吸収(口腔・胃・小腸・大腸の機能)
7	4章:循環(血管の構造、機能、血液、心臓)
8	4章:循環(動脈系・静脈系・リンパ系) 5章:神経系(構成・中枢神経・脳の血管・脳神経)
9	5章:神経系(伝導路) 6章:呼吸(構成)
10	6章:呼吸(胸郭の構造と換気の仕組み・肺気量と換気量・ガス交換・運搬・呼吸の調整)
11	7章:感覚
12	8章:排泄
13	9章:体温
14	10章:内分泌 11章:生殖
15	総まとめテスト

教科書	歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学 医歯薬出版株式会社
-----	--

授業科目	解剖学概論Ⅱ					【講義】	学 科	歯科衛生士学科	
学年	1	学期	後期	単位	2	時間	30	担当教員	青木 良仁（歯科医師）

科目の特徴 (ねらい)	解剖学は人体に関わる全ての学問の基礎となるものであり、歯科衛生士として医療にたずさわっていく中で、人体を構成する諸器官の形態と構造、それらの働きを理解することは重要である。 人体を構成する諸器官の形態や構造について学び、他の教科の基礎知識を身につけ、形態や構造、機能との関連について深く理解する。
成績評価	出席・授業態度・筆記試験の成績で総合評価する。

回数	授業内容
1	顔面筋(表情筋)
2	咀嚼筋(1)
3	咀嚼筋(2)
4	摂食嚥下の機能解剖(1)
5	摂食嚥下の機能解剖(2)
6	血管壁の構造
7	血管の機能
8	心臓の構造と機能
9	循環の生理
10	神経系の基本構築
11	神経細胞の興奮
12	末梢神経系
13	外皮の構造と機能
14	特殊感覚の構造と機能
15	復習

教科書	歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学 医歯薬出版株式会社 歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学 医歯薬出版株式会社
-----	---

授業科目	組織・発生学概論				【講義】	学 科	歯科衛生士学科		
学年	1	学期	前期	単位	2	時間	30	担当教員	近藤 重悟

科目の特徴 (ねらい)	構成された生物体の精密な構造と機能およびその仕組みを研究する学問である。 解剖学の幅広い分野の中で、細胞あるいはそれ以上の微細なレベルの構造を知るために、顕微鏡の力を借りて明かす学問を細胞学または顕微解剖学と言う。
成績評価	出席・授業態度・筆記試験の成績で総合評価する。

回数	授業内容
1	細胞と組織(構造と機能、細胞の一生、上皮組織)
2	細胞と組織(支持組織)
3	細胞と組織(筋組織・神経組織)
4	発生学(染色体と減数分裂、精子・卵子の発生、受精と着床、胚葉の形成)
5	発生学(胎児の成長発育、骨の発生、顔面の発生)
6	発生学(口蓋・下顎骨・顎関節の形成、舌・舌乳頭・唾液腺の発生)
7	発生学(下垂体・甲状腺・鰓原器官の発生、歯と歯周組織の発生)
8	口腔組織学 歯および歯周組織の構造と機能(先行歯)
9	口腔組織学 歯および歯周組織の構造と機能(エナメル質)
10	口腔組織学 歯および歯周組織の構造と機能(象牙質・歯髄)
11	口腔組織学 歯および歯周組織の構造と機能(セメント質・歯根膜)
12	口腔組織学 歯および歯周組織の構造と機能(歯槽骨・歯肉、皮膚と粘膜)
13	講義内容の復習(練習問題100問)
14	講義内容の復習(練習問題の解説)
15	総まとめ

教科書	歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学 医歯薬出版株式会社 歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学 医歯薬出版株式会社
-----	---

授業科目	生理学概論					【講義】	学 科	歯科衛生士学科	
学年	1	学期	前期	単位	1	時間	15	担当教員	松本 範雄

学科の特徴 (ねらい)	人体の様々な機能がどのような機序や調節に基づいて行われているか、その基本的仕組みを総合的に学ぶことを目的としている。この学習で得た知識は、歯科衛生士が全身の健康の一部として口腔領域の治療に関わることを可能にする。
成績評価	定期試験(筆記試験)で評価する。

回数	授業内容
1	生理学とは、血液：ホメオスタシス、体液の区分、血液の成分
2	血液：血球の働き、血漿の成分、血液凝固、血液型
3	循環：心臓の構造と機能、血液循環、血液循環の調節
4	循環：血管の機能、血圧、リンパ循環
5	呼吸：呼吸の仕組みと調節
6	消化と吸収：口腔、胃の消化機能、膵臓・肝臓の働き
7	消化と吸収：小腸・大腸消化吸収機能、排便の仕組み
8	腎機能と排尿：腎臓での尿の生成機構、排尿の仕組み
9	内分泌：内分泌系の特徴、各内分泌臓器のホルモン分泌と働き
10	内分泌：各内分泌臓器のホルモン分泌と働き
11	神経系：神経系の分類、ニューロンとシナプス、自律神経
12	神経系：中枢神経各部の働き
13	感覚：感覚の仕組み、感覚の分類、体性感覚
14	感覚：視覚、聴覚、平衡感覚
15	体温：体温調節の仕組み、体温の異常

教科書	歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学 医歯薬出版株式会社
-----	--

授業科目	口腔解剖学 I				【講義】	学 科	歯科衛生士学科		
学年	1	学期	前期	単位	2	時間	30	担当教員	原 康文

科目の特徴 (ねらい)	歯科衛生士として医療に従事する以上、口腔解剖学は必要不可欠な基礎的学問である。 本講義を通して口腔領域に関心をもってもらいたい。
成績評価	前期試験の結果と授業態度、出席状況など総合的に評価する。

回数	授業内容
1	口腔とは P.10～P.17
2	口腔を構成する骨 P.18～P.34
3	
4	頭頸部の筋と作用 P.34～P.45
5	口腔付近に分布する脈管系 P.45～P.56
6	神経 P.56～P.66
7	歯の形態 P.148～P.156
8	
9	永久歯の特徴 P.156～P.178
10	
11	
12	乳歯の特徴 P.180～P.200
13	
14	歯列・咬合 P.201～P.207
15	総まとめ・期末テスト対策

教科書	歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学 医歯薬出版株式会社
-----	---

授業科目	口腔解剖学Ⅱ				【講義】	学 科	歯科衛生士学科		
学年	1	学期	後期	単位	2	時間	30	担当教員	米満 正美、青木 良仁（歯科医師）

科目の特徴 (ねらい)	口腔領域の解剖学は、歯科医師は勿論のこと、その周辺で医療に従事する人々に特に必要不可欠の基礎学問である。 一般の解剖学であまり対象にされていない歯の形態、それをよくみる観察力を鍛え、その特性を学ばせる。
成績評価	筆記試験、スケッチ、実技試験、出席状況、提出物などを考慮し総合的に評価する。

回数	授業内容
1	歯の解剖学総論
2	永久歯の形態的特徴
3	乳歯の形態的特徴
4	歯の異常
5	歯列と咬合
6	歯および歯周組織の構造と機能(1)
7	歯および歯周組織の構造と機能(2)
8	上顎右側中切歯 彫刻
9	上顎右側中切歯 彫刻
10	上顎右側第一小臼歯 彫刻
11	上顎右側第一小臼歯 彫刻
12	上顎右側第一大臼歯 彫刻
13	上顎右側第一大臼歯 彫刻
14	下顎右側第一大臼歯 彫刻
15	下顎右側第一大臼歯 彫刻

教科書	歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学 医歯薬出版株式会社
-----	---

授業科目	口腔生理学				【講義】	学 科	歯科衛生士学科		
学年	1	学期	前期	単位	2	時間	30	担当教員	松本 範雄

科目の特徴 (ねらい)	すでに学んだ生理学の知識を基礎として、歯と口腔およびその周辺組織のはたらき、すなわち、咀嚼、嚥下、唾液分泌、味覚、口腔感覚、発声などを理解することを目的とする。
成績評価	定期試験(筆記試験)で評価する。

回数	授業内容
1	歯・口腔・顔面の感覚
2	口腔領域の痛覚、特に歯痛
3	味覚と嗅覚
4	咬合と顎反射
5	咀嚼運動・吸啜
6	嚥下と嘔吐
7	発声・発語
8	唾液

教科書	歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学 医歯薬出版株式会社
-----	---

授業科目	病理学概論・口腔病理学 【講義】					学 科	歯科衛生士学科		
学年	1	学期	後期	単位	2	時間	30	担当教員	原 康文

科目の特徴 (ねらい)	本講義を通じて、口腔領域に発生する各疾病の発生機序及び病理学的特徴を理解し、臨床における基本的知識を身に付けることを目的とする。
成績評価	本試験80%、出席点20%

回数	授業内容
1	病理学序論と病因論、遺伝性疾患と奇形
2	循環障害
3	代謝障害と退行性病変
4	増殖と修復
5	炎症と免疫応答異常
6	腫瘍
7	歯の発育異常
8	う蝕
9	象牙質・歯髄複合体の病態
10	歯周組織の病態
11	口腔粘膜の病変
12	口腔領域の嚢胞と腫瘍
13	口腔癌
14	顎骨の病変
15	唾液腺の病変・口腔領域の奇形

教科書	歯科衛生学シリーズ 疾病の成り立ち及び回復過程の促進1病理学・口腔病理学 医歯薬出版株式会社
-----	---

授業科目	微生物学概論・口腔微生物学 【講義】				学 科	歯科衛生士学科			
学年	1	学期	後期	単位	2	時間	30	担当教員	米満 正美 (歯科医師)

科目の特徴 (ねらい)	微生物は自然界に広く生息しており、その種類はウイルスから原虫まで多岐にわたる。ヒトは微生物との相互作用なくして生存し得ない。しかし反面、ごく限られた微生物のみはヒトに対して病原性を発揮する。その為、まず、医学全般に関連した微生物学と宿主側の感染防御機構の免疫学について行い、齶蝕と歯周病の病理学を学び、口腔微生物学・免疫学を学んでいく。
成績評価	出席と筆記試験の成績で総合評価する。

回数	授業内容
1	微生物学の発達と歴史
2	微生物学の一般性状
3	微生物学の観察方法
4	感染
5	免疫
6	病原微生物各論1
7	病原微生物各論2
8	化学療法
9	滅菌と消毒
10	口腔環境と常在微生物
11	歯のバイオフィルム
12	口腔感染症
13	病巣感染
14	院内感染
15	まとめ

教科書	歯科衛生学シリーズ 疾病の成り立ち及び回復過程の促進2微生物学 医歯薬出版株式会社
-----	--

授業科目	生化学概論・口腔生化学 【講義】				学 科	歯科衛生士学科			
学年	1	学期	前期	単位	2	時間	30	担当教員	客本 齊子

科目の特徴 (ねらい)	生化学概論では、生体を構成する物質の構造や機能とそれらを利用した生体での化学反応(代謝)の基礎を理解する。 口腔生化学では、口腔に特徴的な歯や歯周組織、唾液、硬組織、プラークなどで起こる化学反応について理解する。
成績評価	筆記試験の成績で総合評価する。

回数	授業内容
1	生体の構成要素 ①細胞の役割、②生体における水、③酸とアルカリ・pH、生体における緩衝系
2	生体の構成要素 ④生体構成成分と栄養素(五大栄養素の構造と種類)
3	生体における化学反応 ①消化と吸収、②酸素の運搬と二酸化炭素の排出、③栄養素の代謝の相関(全体像)
4	糖質の代謝 ①エネルギー代謝の全体像、②糖質の代謝とエネルギーの生成
5	脂質の代謝 ①脂質の代謝とエネルギーの生成
6	タンパク質とアミノ酸の代謝 ①タンパク質の加水分解、②アミノ酸の代謝分解、③遺伝子の構造と役割(セントラルドグマ)、④タンパク質の合成(遺伝子発現)
7	生体における恒常性の維持 ①恒常性(ホメオスタシス)とは、②ホルモン系と自律神経系による情報伝達
8	歯と歯周組織の生化学 ①歯と歯周組織、②結合組織、③歯
9	硬組織の生化学 ①血清中のカルシウムとリン酸、②石灰化の仕組み
10	硬組織の生化学 ③骨の生成と吸収、④血清カルシウムの代謝調節、⑤歯の脱灰と再石灰化、⑥臨海pH
11	唾液の生化学 ①唾液の組成と機能
12	プラークの生化学 ①プラークの生物活性(ペリクルの役割を含む)、②プラーク細菌による酸産生とう蝕発症機構
13	プラークの生化学 ③プラーク細菌による口臭発症機構
14	プラークの生化学 ④プラークによる歯周疾患発症機構
15	演習 知識定着度の確認と重要事項のまとめ、理解力の向上

教科書	歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能2 栄養と代謝 医歯薬出版株式会社
-----	-------------------------------------

授業科目	薬理学概論・歯科薬理学 【講義】					学 科	歯科衛生士学科		
学年	1	学期	後期	単位	2	時間	30	担当教員	西原 大介

科目の特徴 (ねらい)	主に疾病と治療薬という観点から、医薬品が生体機能に与える影響メカニズムを学ぶ。「クスリがなぜ効くのか?」、医薬品が患者の身体にどのような影響を与えるか、これらを理解するための基礎となる知識を身につけることを目的とする。そのためには、生体機能に関する生理・病態を理解しておく必要がある。
成績評価	出席と筆記試験の成績で総合評価する。

回数	授業内容
1	薬理学総論(1):医薬品の定義と分類や保管法など、一般的な医薬品の基礎を理解する。
2	薬理学総論(2):医薬品の添付文書を参考に医薬品の作用機序と服用量等から医薬品を理解する。
3	薬理学総論(3):医薬品の体内動態を理解することで副作用の原因や発現防止について学ぶ。
4	中枢神経作用薬:中枢神経系に作用する全身麻酔薬、鎮静睡眠薬、抗不安薬を理解する。
5	末梢神経作用薬:交換・副交感神経の作動薬・抑制薬、局所麻酔薬、筋作動薬等を理解する。
6	循環・呼吸器系薬:循環・呼吸系に作用する心疾患用薬降圧薬等を理解する。
7	血液作用薬:止血機構に関与する血液凝固因子を理解し、止血薬、抗血栓用薬等を理解する。
8	鎮痛・消炎作用薬:炎症のメカニズムを理解し、消炎鎮痛薬の分類と特徴を学ぶ。麻薬の取り扱いを理解する。
9	抗アレルギー薬等:アレルギー発現機序を理解し、抗アレルギー剤の分類と特徴を学ぶ。
10	内分泌系用薬:ホルモン分泌機構と薬理作用並びビタミンの作用、内分泌系に作用する医薬品を理解する。
11	抗生物質・抗菌薬:抗生物質や抗菌薬の分類や特徴を学び、耐性や副作用、使用法を理解する。
12	化学療法薬:抗がん剤について、作用及び副作用・注意点等を理解する。
13	漢方薬:漢方薬を理解する。
14	歯科治療用薬:歯科疾患に用いられる医薬品について作用・副作用、特徴等を理解する。
15	まとめ:一般的な服薬指導や、小児・高齢者・妊産婦に対する投薬時の注意点を理解する。

教科書	歯科衛生学シリーズ 疾病の成り立ち及び回復過程の促進3 薬理学 医歯薬出版株式会社
-----	--

授業科目	基礎医学総合実習 【実習】				学 科	歯科衛生士学科			
学年	1	学期	後期	単位	1	時間	30	担当教員	木村 寿子（歯科衛生士）

科目の特徴 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎医学(解剖・生理・病理・薬理)に関連する全身疾患の病態知識を深めるとともに、歯科治療に影響する全身状態のリスクを把握し対応できる能力を養う。 ・全身疾患の病態、症状、病状、服薬について理解する。 ・感染対策・急性症状・偶発事故リスク・救急蘇生法を学び対応できる。 ・歯科における偶発症の誘因・原因を理解しリスクマネジメントに即した対応ができる。 ・バイタルサインがわかり、測定から判断できる。 ・全身疾患の病態特性を理解し、問診から対応できる。 ・救急蘇生法が実践できる。
成績評価	学習態度・提出物・定期試験により総合的に評価し、60点に満たない場合は再試験を行う。

回数	授業内容
1	基礎医学総論について 偶発症の誘因・原因と歯科治療について
2	演習 バイタルサインについて 測定 1年生と3年生
3	全身疾患の病態、生理から基礎医学を学ぶ。解剖・生理・病理・薬理1
4	全身疾患の病態、生理から基礎医学を学ぶ。解剖・生理・病理・薬理2
5	G学習に向けて 全身疾患の歯科治療上の注意
6	糖尿病・肝炎・肝硬変・心疾患・高血圧・低血圧・アレルギー・脳血管疾患・癌について
7	G学習。3人1組 8G 問診 症状・状態・服薬・副作用・口腔内状況、急性症状 歯科治療上の注意・対応
8	
9	
10	
11	G発表 補足、評価
12	救急蘇生法とは
13	演習
14	演習
15	周術期口腔ケアについて 定期試験に向けて

教科書	歯科衛生士のための全身疾患ハンドブック 医歯薬出版株式会社
-----	-------------------------------

授業科目	衛生学・公衆衛生学 【講義】					学 科	歯科衛生士学科		
学年	1	学期	後期	単位	1	時間	15	担当教員	米満 正美（歯科医師）

科目の特徴 (ねらい)	健康に影響する環境衛生の重要性を理解し、個人と集団に対する健康障害の予防能力を高める態度を養う。
成績評価	出席・授業態度・筆記試験の成績で総合評価する。

回数	授業内容
1	<p>序論</p> <p>(1)健康の定義と国民の権利について説明できる。 (2)プライマリヘルスケアとヘルスプロモーションの概要が説明できる。 (3)一次予防、二次予防、三次予防について説明できる。</p>
2	<p>人口</p> <p>(1)我が国と世界における人口の現状と推移の概要を説明できる。 (2)静態統計と動態統計について説明できる。 (3)人口構造の表し方として人口ピラミッドや各種指標について説明できる。 (4)生命表の概要を理解して平均寿命を説明できる。</p>
3	<p>健康と環境(Ⅰ)</p> <p>(1)環境の重要性が理解できる。 (2)人間と環境の関係を説明できる。 (3)健康と環境の関係を説明できる。</p>
4	<p>健康と環境(Ⅱ)</p> <p>(1)地球規模で進行している環境破壊への対応を説明できる。 (2)公害問題を解決するための方法を選択できる。 (3)廃棄物を減量するための方法を例挙できる。</p>
5	<p>疫学</p> <p>(1)疫学の定義と重要性を説明できる。 (2)疾病や異常の発生要因が例挙できる。 (3)多要因疾病発生論を説明できる。 (4)疾病の発生や流行状態を表す指標を例挙できる。 (5)疫学研究の種類・方法が説明できる。 (6)疫学研究における倫理的配慮の必要性が説明できる。</p>
6	<p>感染の予防</p> <p>(1)感染症の概念と感染症成立の三要因について説明できる。 (2)感染予防・流行防止の基本的な考え方と対策について説明できる。 (3)感染症対策上の問題点について説明できる。 (4)感染症の分類とその内容について説明できる。 (5)主な感染症とその動向について説明できる。</p>

7	<p>非感染症</p> <p>(1)生活習慣と健康について概説できる。 (2)主な生活習慣病の病因と病態について説明できる。 (3)保健行動について説明できる。 (4)疾病の多要因説を説明できる。 (5)歯科疾患と全身の健康との関連性を説明できる。</p>
8	<p>食品と健康</p> <p>(1)我が国の食中毒の発生状況を説明できる。 (2)食中毒の分類と特徴が説明できる。 (3)食品の安全性確保のための方策を例挙できる。 (4)日本人の食事摂取基準についてその基本的概念を説明できる。 (5)我が国の食生活の現状と問題点について説明できる。 (6)健康づくりのための食生活指針や食育の推進について説明できる。</p>

教科書	<p>歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学 医歯薬出版株式会社</p> <p>デンタルスタッフの衛生学・公衆衛生学 医歯薬出版株式会社</p>
-----	---

授業科目	口腔衛生学 I				【講義】	学 科	歯科衛生士学科		
学年	1	学期	後期	単位	2	時間	30	担当教員	米満 正美 (歯科医師)

科目の特徴 (ねらい)	口腔の健康に関わる社会の仕組みを理解し、歯科疾患の予防能力を高める態度を養う。
成績評価	出席・授業態度・筆記試験の成績で総合評価する。

回数	授業内容
1	<p>序論</p> <p>(1)口腔の健康の定義を説明できる。 (2)歯・口腔の健康保持・増進する手段について概説できる。 (3)歯と歯周組織の構造と働きを説明できる。 (4)口腔を構成する粘膜、舌、顎関節などの組織の構造と働きを説明できる。 (5)唾液腺の種類および唾液の働きについて説明できる。 (6)歯・口腔の形成および発育・発達について説明できる。 (7)歯・口腔の形成異常について説明できる。 (8)歯・口腔の機能について説明できる。 (9)口腔と全身の健康の関係について説明できる。</p>
2	<p>口腔の不潔</p> <p>(1)バイオフィルムの組成と形成機序について説明できる。 (2)歯石について説明できる。</p>
3	<p>口腔清掃(I)</p> <p>(1)口腔清掃の意義を説明できる。 (2)口腔清掃法の種類を例挙できる。 (3)人工的清掃法の分類と用具を例挙できる。</p>
4	<p>口腔清掃(II)</p> <p>(1)不適切な口腔清掃による為害作用とその予防法を例挙できる。 (2)歯磨剤と洗口剤の種類を例挙できる。 (3)歯磨剤と洗口剤の組成について説明できる。</p>
5	<p>齲蝕の病因と予防(I)</p> <p>(1)齲蝕発病のメカニズムについて説明できる。 (2)齲蝕の発病要因(宿主、微生物、食事性基質)について説明できる。 (3)齲蝕活動性試験について説明できる。 (4)リスクに応じた齲蝕予防処置について概説できる。 (5)齲蝕の一次予防、二次予防、三次予防について説明できる。 (6)MIDC(Minimal Intervention Dentistry)について説明できる。 (7)発病要因に対する予防法を例挙できる。</p>
6	特別講義 歯科疾患の予防(治療)に用いられる器材(学外講師)
7	<p>フッ化物による齲蝕予防(I)</p> <p>(1)人間生態系におけるフッ化物の作用を説明できる。 (2)生体におけるフッ化物の代謝を説明できる。 (3)フッ化物の毒性を認識し、正しい対処法が説明できる。</p>

8	<p>フッ化物による齲蝕予防(Ⅱ)</p> <p>(1)フッ化物応用による齲蝕予防法を説明できる。 (2)フッ化物による齲蝕予防メカニズムについて説明できる。 (3)ライフステージに応じたフッ化物の応用方法を説明できる。</p>
9	<p>歯周疾患の病因と予防(Ⅰ)</p> <p>(1)健康な歯周組織の構造を概説できる。 (2)歯周疾患の炎症の広がりと症状を説明できる。 (3)歯周疾患の種類と原因を説明できる。 (4)歯周疾患のリスクファクターを例挙できる。</p>
10	<p>歯周疾患の病因と予防(Ⅱ)</p> <p>(1)歯周疾患の全身に与える影響を説明できる。 (2)歯周疾患の予防法を説明できる。 (3)歯周疾患の予防と治療における処置を説明できる。 (4)定期的予防処置の必要性を説明できる。</p>
11	<p>口臭と病因と予防</p> <p>(1)口臭発生の要因を説明できる。 (2)口臭の原因物質を説明できる。 (3)口臭の測定法を例挙できる。 (4)口臭症患者には心身医学的対応が必要であることを説明できる。 (5)口臭症の予防について説明できる。</p>
12	<p>その他の疾患・異常の予防</p> <p>(1)不正咬合を起こす要因を例挙し、予防可能な要因について説明できる。 (2)口内炎の分類、要因および予防について説明できる。 (3)口腔がんの実態とその予防について説明できる。 (4)顎関節症の分類と症状について説明できる。 (5)歯の形成不全の原因を例挙できる。 (6)口腔乾燥症の要因と予防について説明できる。</p>
13	<p>歯科疾患の数量化(Ⅰ)</p> <p>(1)齲蝕に関する指標 (2)歯周疾患に関する指標 (3)不正咬合・歯列不正に関する指標</p>
14	<p>歯科疾患の数量化(Ⅱ)</p> <p>(1)口腔清掃度に関する指標 (2)歯のフッ素症に関する指標 (3)歯の審美性に関する指標</p>
15	<p>歯科疾患の疫学</p> <p>(1)齲蝕の疫学的特性を概説できる。 (2)歯周疾患の疫学的特性を概説できる。 (3)その他の歯科疾患の疫学的特性を概説できる。</p>

教科書	<p>歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学 医歯薬出版株式会社</p>
-----	--

授業科目	口腔衛生学Ⅱ				【講義】	学 科	歯科衛生士学科		
学年	2	学期	後期	単位	2	時間	30	担当教員	米満 正美 (歯科医師)

科目の特徴 (ねらい)	生活と健康に関わる社会の仕組みを理解し、地域社会における保健対策の基本的な考え方を学び、地域集団に対する疾病の予防能力を高める態度を養う。
成績評価	出席・授業態度・筆記試験の成績で総合評価する。

回数	授業内容
1	<p>序論</p> <p>(1) 地域保健を担う組織の仕組みと特徴が概説できる。</p> <p>(2) ヘルスプロモーションやノーマライゼーションなどの地域保健の新たな概念を概説できる。</p> <p>(3) 地域保健の基本的な進め方を概説できる。</p> <p>(4) 地域歯科保健に関する保健福祉関係施策の変革について概説できる。</p> <p>(5) ライフステージごとの口腔保健施策が概説できる。</p>
2	<p>母子保健</p> <p>(1) 我が国の母子保健の概略を説明できる。</p> <p>(2) 母子保健手帳について説明できる。</p> <p>(3) 妊産婦の特性を概説できる。</p> <p>(4) 1歳6か月児・3歳児健康診査の目的を説明できる。</p>
3	<p>母子歯科保健</p> <p>(1) 母子歯科保健の意義を説明できる。</p> <p>(2) 妊産婦への歯科保健指導の要点を説明できる。</p> <p>(3) 1歳6か月児・3歳児健康診査の結果から齲蝕罹患型を分類できる。</p> <p>(4) 齲蝕罹患型に応じた歯科保健指導の要点を例挙できる。</p> <p>(5) 妊産婦期と乳幼児期の口腔保健管理について説明できる。</p>
4	<p>学校保健</p> <p>(1) 学校保健の対象者を列挙し、意義を説明できる。</p> <p>(2) 学校において被患率の高い疾病異常を列挙できる。</p> <p>(3) 学校保健関係職員を列挙し、その役割を説明できる。</p> <p>(4) 学校保健の保健教育と保健管理を概説できる。</p> <p>(5) 学校における健康診断を概説できる。</p> <p>(6) 学校保健委員会の構成と活動を概説できる。</p>
5	<p>学校歯科保健</p> <p>(1) 学校歯科健康診断の検査項目を列挙し、事後措置内容を説明できる。</p> <p>(2) 学校歯科健康診断の記入記号を列挙し、基準を説明できる。</p> <p>(3) 学校歯科健康診断後のCOとGOの事後措置を説明できる。</p>
6	<p>成人保健</p> <p>(1) 生活習慣病のリスクファクターを列挙できる。</p> <p>(2) 特定健診、特定保健指導について説明できる。</p>
7	<p>成人歯科保健</p> <p>(1) 成人期の口腔保健管理について説明できる。</p>

8	<p>産業保健</p> <p>(1)産業保健の目的が説明できる。 (2)産業衛生に関する法規が理解できる。 (3)職業性疾病を起こす要因を列挙できる。 (4)労働安全衛生法について概説できる。 (5)作業環境管理、作業管理及び健康管理について説明できる。 (6)職域における健康診断の種類と意義について説明できる。 (7)THP(Total Health Prpmotion Plan)について説明できる。</p>
9	<p>産業歯科保健</p> <p>(1)口腔領域における職業性疾患を説明できる。 (2)口腔領域における職業性疾患の予防法を説明できる。</p>
10	<p>老人保健</p> <p>(1)高齢者の保健対策を説明できる。 (2)介護保険を説明できる。 (3)介護予防サービスである地域支援事業と新予防給付を説明できる。</p>
11	<p>老人歯科保健</p> <p>(1)加齢に伴う口腔内変化を説明できる。 (2)誤嚥性肺炎を説明できる。 (3)高齢者に対する口腔ケアの重要性を説明できる。</p>
12	<p>精神保健</p> <p>(1)精神保健の定義を説明できる。 (2)健康に関わる精神保健の意義が概説できる。 (3)精神障害者の歯科保健の問題を概説できる。</p>
13	<p>国際保健</p> <p>(1)国や地域により健康水準や保健医療の発達程度が異なっていることが概説できる。 (2)国際協力に関わる機関を列挙できる。 (3)WHOやJICAの活動を概説できる。 (4)世界の歯科疾患の状況と口腔保健従事者について説明できる。</p>
14	<p>特別講義(齲蝕の国際比較研究)</p> <p>(1)先進国、発展途上国の齲蝕罹患状況とその差異の背景にあるものを理解する。</p>
15	<p>我が国の歯科保健の現状と今後の展望</p> <p>(1)我が国の歯科保健状況の歴史的推移を理解する。 (2)これからの歯科保健・医療を展望する能力を身に着ける。</p>

教科書	<p>歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学 医歯薬出版株式会社</p>
-----	--

授業科目	歯科衛生統計学 【講義】					学 科	歯科衛生士学科		
学年	2	学期	前期	単位	1	時間	15	担当教員	米満 正美 (歯科医師)

科目の特徴 (ねらい)	患者や住民に保健・医療情報を正しく伝達するために必要な知識及び技能を習得する。
成績評価	出席・授業態度・筆記試験の成績で総合評価する。

回数	授業内容
1	保健情報と保健統計 (1) データと情報の違いを説明できる。 (2) EBMについて説明できる。 (3) 国家統計調査を列挙し、概説できる。
2	保健情報の分析手順 (1) 保健情報の収集方法を説明できる。 (2) 保健情報収集のための調査法について概説できる。 (3) 母集団と標本について説明できる。
3	歯科疾患の数量化 (1) 歯科疾患の特徴を説明できる。 (2) う蝕の指数を説明できる。 (3) 歯周疾患の指数を説明できる。 (4) 口腔の清掃度の指標を説明できる。 (5) その他の歯科疾患の数量化を説明できる。
4	保健統計の方法 (1) データの尺度について説明できる。 (2) 各種分布について概説できる。 (3) 統計における代表値について説明できる。 (4) 推定法を概説できる。 (5) 検定法を概説できる。 (6) 多変量解析を概説できる。
5	保健情報の分析演習(1) (1) 2変量の散布図が作成できる。 (2) 相関係数の意味を説明できる。 (3) 相関と因果関係の違いを説明できる。
6	保健情報の分析演習(2) (1) 平均値の差の検定ができる。(t-検定) (2) 割合の差の検定ができる。(カイ二乗検定) (3) 各種図表の特徴を説明できる。
7	保健情報の分析演習(3) (1) 棒グラフを作成できる。 (2) ヒストグラフを作成できる。 (3) 折れ線グラフを作成できる。 (4) 円グラフを作成できる。 (5) 帯グラフを作成できる。 (6) レーダーチャートを作成できる。
8	情報の保護と倫理 (1) 情報社会(IT社会)の問題点を列挙できる。 (2) 情報の開示と個人情報保護について説明できる。

教科書	歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み3 保健情報統計学 医歯薬出版株式会社
-----	---

授業科目	社会歯科学(衛生行政を含む) 【講義】				学 科	歯科衛生士学科			
学年	3	学期	前期	単位	1	時間	15	担当教員	米満 正美 (歯科医師)

科目の特徴 (ねらい)	歯科保健・医療を円滑に行うために、衛生行政、関係職種について理解する。
成績評価	出席・授業態度・筆記試験の成績で総合評価する。

回数	授業内容
1	社会保障 (1) 社会保障について理解する。 (2) 社会保険について理解する。
2	医療保険制度 (1) 我が国の医療保険制度を理解する。
3	介護保険制度 (1) 介護保険制度について理解する。
4	その他の社会保険 (1) 年金保険制度について理解する。 (2) 雇用保険制度について理解する。 (3) 労働者災害補償保険について理解する。
5	社会福祉制度と法規 (1) 社会福祉行政について理解する。 (2) 生活保護と法規について理解する。 (3) 児童と家庭の福祉制度と法規について理解する。 (4) 障害者の福祉制度と法律について理解する。 (5) 老人福祉法について理解する。
6	医療の動向-1 (1) 国民の健康状態について理解する。 (2) 受領状況について理解する。
7	医療の動向-2 (1) 医療施設について理解する。 (2) 医療従事者について理解する。
8	医療の動向-3 (1) 国民医療費の動向について理解する。 (2) 歯科医療費の動向について理解する。

教科書	歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み2保健・医療・福祉の制度 医歯薬出版株式会社
-----	--

授業科目	関係法規(社会保険制度論を含む)【講義】					学 科	歯科衛生士学科		
学年	3	学期	後期	単位	1	時間	15	担当教員	米満 正美 (歯科医師)

科目の特徴 (ねらい)	歯科保健・医療を円滑に行うために、関係法規と制度について理解する。
成績評価	出席・授業態度・筆記試験の成績で総合評価する。

回数	授業内容
1	衛生行政とは (1)衛生行政の目的について理解する。 (2)衛生行政の歴史について理解する。 (3)衛生行政の組織について理解する。
2	衛生関係法規-1 (1)法制を概説できる。 (2)歯科衛生士法を説明できる。
3	衛生関係法規-2 (1)歯科医師法を理解する。 (2)歯科技工士法を理解する。
4	衛生関係法規-3 (1)歯科口腔保健の推進に関する法律を理解する。 (2)医療法を理解する。
5	衛生関係法規-4 (1)医療関係職種の身分法を理解する。
6	衛生関係法規-5 (1)薬事に関連する法規について理解する。
7	衛生関係法規-6 (1)地域保健に関連する法規について理解する。
8	衛生関係法規-7 (1)食品衛生法を理解する。 (2)感染症法を理解する。

教科書	歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み2保健・医療・福祉の制度 医歯薬出版株式会社
-----	--

授業科目	歯科衛生士概論					【講義】	学 科	歯科衛生士学科	
学年	1	学期	前期	単位	2	時間	30	担当教員	木村 寿子 (歯科衛生士)

科目の特徴 (ねらい)	歯科衛生士とは何かを理解し、専門科目を学ぶための基本的な知識、態度、技能を身につけることをねらいとしている。
成績評価	出席状況、授業態度、提出物、定期試験の結果などを考慮し評価する。

回数	授業内容
1	歯科衛生と健康
2	歯科衛生の歴史
3	歯科衛生活動のための理論
4	歯と口腔の疾病と異常
5	歯科医療と歯科保健
6	歯科医療保健を支えるもの
7	歯科衛生士と医療倫理
8	インフォームド・コンセントとは
9	歯科医療保健にたずさわる人
10	歯科衛生士法と歯科衛生業務
11	職業人としての心構え
12	歯科衛生士の活動
13	歯科衛生士と組織
14	海外における歯科衛生士
15	まとめ

教科書 参考書	歯科衛生学シリーズ 歯科衛生学総論 医歯薬出版株式会社
------------	-----------------------------

授業科目	看護学概論				【講義】	学 科	歯科衛生士学科		
学年	3	学期	後期	単位	1	時間	15	担当教員	木村 寿子（歯科衛生士）

科目の特徴 (ねらい)	<p>看護の基礎知識を学び、チーム医療の一員として歯科衛生士の役割を担う能力を身につけることをねらいとする。</p> <p>多職種と連携できるコミュニケーション能力を身につけることをねらいとする。</p> <p>歯科予防処置、歯科診療補助、歯科保健指導の他にも目を向けられるような知識・技術を修得することをねらいとする。</p>
成績評価	出席・授業態度・提出物・定期試験の成績で総合評価する。

回数	授業内容
1	病院における歯科衛生士の役割
2	看護の概念
3	バイタルサイン
4	患者とのコミュニケーション
5	患者への支援
6	滅菌と消毒、感染対策
7	入院加療をする患者の看護
8	地域社会における歯科衛生士の役割

教科書	歯科衛生士のための看護学大意 第3版 医歯薬出版株式会社他
-----	-------------------------------

授業科目	歯科臨床概論				【講義】	学 科	歯科衛生士学科		
学年	1	学期	前期	単位	1	時間	15	担当教員	米満 正美 (歯科医師)

科目の特徴 (ねらい)	歯科医学を学び医療人として社会に貢献できるようになるために、歯科臨床の基本的な内容を理解する。
成績評価	出席・授業態度・筆記試験の成績で総合評価する。

回数	授業内容
1	歯科診療とは(Ⅰ編1章) (1)歯科臨床の場を説明できる。 (2)歯科診療の場と関わる人々について説明できる。 (3)歯科診療の対象者を説明できる。
2	歯科診療所と業務(Ⅰ編2,3章) (1)歯科診療所のスタッフを説明できる。 (2)歯科診療所の概要を説明できる。 (3)歯科診療所における安全管理について説明できる。 (4)歯科診療所全体の業務を概説できる。 (5)歯科診療所における歯科診療と衛生業務を概説できる。
3	ライフステージと歯科診療(Ⅱ編1章) (1)ライフステージごとの歯科診療の特徴を説明できる。
4	主な診療の流れ(Ⅱ編2章-1,2,3) (1)診査・検査・前処理を概説できる。 (2)小児歯科診療を概説できる。 (3)矯正歯科治療を概説できる。
5	主な診療の流れ(Ⅱ編2章-4,5) (1)口腔外科治療を概説できる。 (2)歯科保存治療を概説できる。
6	主な診療の流れ(Ⅱ編2章-6) (1)歯周治療を概説できる。
7	主な診療の流れ(Ⅱ編2章-7) (1)歯科補綴治療を概説できる。
8	主な診療の流れ(Ⅱ編2章-8) (1)障害者歯科治療を概説できる。 (2)高齢者歯科治療を概説できる。

教科書	歯科衛生士のための歯科臨床概論 第2版 医歯薬出版株式会社
-----	-------------------------------

授業科目	口腔診断学				【講義】	学 科	歯科衛生士学科		
学年	2	学期	前期	単位	1	時間	15	担当教員	熊坂 覚

科目の特徴 (ねらい)	<p>口腔診断学は、口腔領域で専門分化されている学問を診断面から総括的に統合し、患者の訴える症状の正確な把握、その症状を発現させている病因・病態の総合診断、およびその判断に基づく最良の治療方針の選択及び処置から予後に至るまでの過程(診断プロセス)を総論的に観察・管理・研究する学問である。</p> <p>本講義は、歯科衛生士として歯科医師の活動を援助するのに必要な口腔診断学の知識・技能、特に診察録の記載、歯科医療の流れ、診察時の基本的な情報の集め方および病む人間のマネージメントするに必要な患者心理の理解などについて学習、修得することを目指している。</p>
成績評価	出席と筆記試験の成績で総合評価する。

回数	授業内容
1	1) 口腔診断学とは 2) 問題解決のプロセス 3) 診療録
2	1) 診察(病歴-問診) 2) 診察(現症)
3	1) 口腔疾患と口腔診断 2) 病む人間のマネージメント
4	1) 歯科臨床におけるコミュニケーション 2) パーソナルスペースとは
5	歯科領域の心身症 1) 口腔領域の心身症 2) 口腔処置に対する神経症的反応
6	歯科領域の心身症 3) 口腔領域の神経症 4) 心身症発症のカラクリ 5) 心身症発症の誘因 6) 口臭症(自臭症) 7) 口腔領域の神経症的習癖
7	歯科領域の心身症 8) 舌痛症 9) 心身症の治療
8	口腔診断学小テスト

教科書	指定無し。プリントを配布。
-----	---------------

授業科目	歯科保存学Ⅰ（保存修復学）【講義】				学 科	歯科衛生士学科			
学年	2	学期	前期	単位	1	時間	15	担当教員	小笠原 茉莉子

科目の特徴 (ねらい)	<p>歯科保存学は、歯の硬い組織欠損や形態異常に対して、人工的な材料で修復を行って、歯の固有の形態と機能を回復することを目的としている。</p> <p>臨床において高頻度に遭遇する疾患を診療分野に含んでいるため、臨床歯科医学の中でもより基本的な学問の一つであり、患者さんとの対面・直接行為である歯科診療補助とも密接に関わっている。従って、この保存修復学を通じて、歯の生物学的な知識、修復方法、修復材料、使用機材・薬剤に対する基礎的な事項を修得し、診療の流れを全体的に把握しうるだけの知識を身につけることが望まれる。</p>
成績評価	出席・事業態度・提出物・筆記試験の成績で総合評価する。

回数	授業内容
1	保存修復学総論
2	硬組織・歯髄・根尖歯周組織疾患について
3	口腔審査・歯科衛生士と保存治療
4	保存修復学の概要
5	アマルガム修復
6	コンポジットレジン修復
7	セメント修復・ラミネートベニア修復
8	鑄造修復・その他の修復方法・歯牙漂白

教科書	歯科衛生学シリーズ 保存修復学・歯内療法学 医歯薬出版株式会社
-----	---------------------------------

授業科目	歯科保存学Ⅱ(歯周治療学) 【講義】				学 科	歯科衛生士学科			
学年	2	学期	前期	単位	1	時間	15	担当教員	青木 良仁 (歯科医師)

科目の特徴 (ねらい)	<p>歯周治療は、歯科治療の基本であり、保存、補綴、矯正治療を行う場合においても、正常歯周組織でなければ治療は成功しない。また、安定した咬合機能を営むためには、歯周組織が健康である必要がある。</p> <p>歯周治療終了後、回復した口腔機能を長い期間に渡り維持するためには、患者の自己管理を中心としたサポータブセラピーを継続して行うことが必要である。</p> <p>歯周治療学では、まず正常歯周組織を理解し、その病院、臨床像を正しく認識し、その治療方法を学ぶ予定である。また、予防、サポータブセラピー、メンテナンスの違いも理解し、歯周治療を総合的に学ぶことを目的とする。</p>
成績評価	出席・授業態度・提出物・筆記試験の成績で総合評価する。

回数	授業内容
1	正常な歯周組織と機能
2	歯周病の分類と原因
3	歯周治療の進め方
4	歯周病の検査
5	歯周基本治療
6	歯周外科治療
7	歯周治療としての口腔機能回復治療
8	歯周治療における歯科衛生士の業務

教科書	歯科衛生学シリーズ 歯周病学 医歯薬出版株式会社
-----	--------------------------

授業科目	歯科保存学Ⅲ(歯内療法学) 【講義】				学 科	歯科衛生士学科			
学年	2	学期	前期	単位	1	時間	15	担当教員	上松 丈裕

科目の特徴 (ねらい)	歯内療法学は、その位置づけとその必要性を理解させる。そのためには、歯内療法学の基本理念、各種処置法の目的、術式、使用器具、使用薬剤等の歯科衛生士としての歯科临床上必要な知識を育成する。
成績評価	出席・授業態度・提出物・筆記試験の成績で総合評価する。

回数	授業内容
1	歯内療法学概論 硬組織疾患の概要と治療法
2	硬組織疾患の概要と治療法 歯髄疾患の概要と治療法
3	歯髄疾患の概要と治療法 感染根管の概要と治療法
4	感染根管の概要と治療法 根尖性歯周組織疾患の概要と治療法
5	根管充填
6	歯髄および根管充填時の偶発症
7	歯内歯周治療・外科的歯内治療
8	歯内療法学のまとめ

教科書	歯科衛生学シリーズ 保存修復学・歯内療法学 医歯薬出版株式会社
-----	---------------------------------

授業科目	歯科補綴学 I				【講義】	学 科	歯科衛生士学科		
学年	2	学期	前期	単位	2	時間	30	担当教員	松尾 紘吾

科目の特徴 (ねらい)	<p>補綴学は、喪失した人体の部分や器官の形態や機能を人工的に回復しようとする医学の一分野で、義眼、義手、義肢、エピテーゼ、人工心肺などがある。</p> <p>歯科補綴学は、歯冠の欠損から全歯欠如におよぶ歯列の人工的修復に関わる材料や術式あるいは予後の管理、さらに咬合問題に起因する顎口腔系、および自律神経系との機能的関係を研究する科学で、解剖学、生理学などの基礎知識の理解が基本である。</p> <p>本講座では、歯の欠如や歯列の補綴、これらの修復物、補綴物の管理、補綴的介入の功罪、身体機能との関係について講義し、歯科衛生士として求められる補綴学の知識を学び、補綴治療が口腔と全身の機能、さらに心の健康との関連を理解し、歯科医学的意義について理解することを目的とする。</p>
成績評価	出席・授業態度・提出物・筆記試験の成績で総合評価する。

回数	授業内容
1	歯科補綴とは 補綴歯科治療の基礎知識
2	顎・口腔系の機能 基準平面
3	咬合様式と顎運動
4	歯の欠損に伴う障害と補綴歯科治療
5	補綴歯科治療に伴う合併症 顎問題とその異常
6	補綴装置の特徴と種類
7	補綴歯科治療における診査・診断
8	クラウン治療の流れ ブリッジ治療の流れ 顎運動の診査
9	補綴歯科治療に用いられる器材、印象採得用器材
10	咬合採得用器材
11	補綴歯科治療における歯科技工
12	検査・診断時の業務 治療時の業務
13	治療時の業務 患者誘導
14	総論の復習
15	各論の復習

教科書	歯科衛生学シリーズ 歯科補綴学 医歯薬出版株式会社
-----	---------------------------

授業科目	歯科補綴学Ⅱ				【講義】	学 科	歯科衛生士学科		
学年	2	学期	前期	単位	1	時間	15	担当教員	小村 圭介

科目の特徴 (ねらい)	<p>歯科臨床において治療する割合が多いのは齲蝕、歯周病、そして義歯である。</p> <p>本講義では、総義歯並びに部分床義歯の作製方法、義歯を作成するにあたり必要な口腔内のランドマーク、義歯の修理方法を習得する。また、日常臨床で義歯作製時に必要な器具・器材を学ぶことで、外部実習でスムーズな作業が出来るように努める。</p> <p>さらに、義歯を作製するにあたり口腔内の状態によっては抜歯を行ってから義歯を作製する場合もあるが、抜歯をするにあたり覚えておくべき全身疾患を確認し、安易に抜歯することの危険性についても学ぶ。</p>
成績評価	前期試験問題、授業態度、出席率を総合的に判断し可否を決定する。

回数	授業内容
1	義歯の製作手順概要
2	全部床義歯
3	部分床義歯
4	問題演習
5	特殊な義歯
6	歯科技工、臨床時に必要な準備器材
7	義歯修理、義歯作製時に気をつけるべき全身疾患
8	問題演習

教科書	歯科衛生学シリーズ 歯科補綴学 医歯薬出版株式会社
-----	---------------------------

授業科目	口腔外科学・歯科麻酔学				【講義】	学 科	歯科衛生士学科
学年	2	学期	前期	単位	2	時間	30
						担当教員	澁田 大路

科目の特徴 (ねらい)	<p>口腔外科領域に発現する疾患には、口腔に原発する口腔特有な疾患や口腔領域の外傷、奇形の他に、全身疾患の部分症状として発現する病変がある。</p> <p>口腔・顎顔面領域等、口腔外科領域の疾患が理解されるよう考慮する。</p> <p>さらに、診療の実際として、診察や診断の介助、代表的な口腔外科小手術の概要についても理解してもらう。</p>
成績評価	出席・筆記試験の成績で総合評価する。

回数	授業内容
1	口腔外科の概要
2	顎・口腔領域の先天異常と発育異常
3	NHK 番組DVD 感想提出
4	顎・口腔領域の損傷及び機能障害
5	口腔粘膜の病変
6	小テスト
7	粘膜の出血及び貧血を主徴とする疾患
8	顎・口腔領域の化膿性炎症疾患
9	顎・口腔領域の嚢胞性疾患
10	顎・口腔領域の腫瘍及び腫瘍類似疾患
11	唾液腺疾患
12	口腔領域の神経疾患・口腔外科診療の実際
13	診察と診断・清潔と不潔・口腔外科小手術
14	嚢胞摘出術・歯根端切除術・歯槽骨整形術
15	まとめ

教科書	歯科衛生学シリーズ 口腔外科学・歯科麻酔学 医歯薬出版株式会社
-----	---------------------------------

授業科目	小児歯科学				【講義】	学 科	歯科衛生士学科		
学年	2	学期	前期	単位	1	時間	15	担当教員	青木 良仁 (歯科医師)

科目の特徴 (ねらい)	小児の特徴をとらえ、小児歯科治療に必要なことを理解すること
成績評価	定期試験、学習態度による総合判定とする。 定期試験は100点満点とし、60点以上の場合、合格とする。

回数	授業内容
1	小児歯科学概要
2	小児への対応と医院実習へ向けて覚えておくべきこと
3	小児の特徴と成長 感染症について
4	小児歯科治療の流れ 保存修復治療
5	歯内療法 外科治療
6	咬合誘導について
7	歯みがき指導と口腔管理
8	傷害をもった小児への対応
9	小児の特徴と治療のまとめ
10	小児歯科学 総まとめ

教科書	歯科衛生学シリーズ 小児歯科学 医歯薬出版株式会社
-----	---------------------------

授業科目	歯科矯正学					【講義】	学 科	歯科衛生士学科	
学年	2	学期	前期	単位	2	時間	30	担当教員	吉田 洋一

科目の特徴 (ねらい)	矯正治療の目的や不正咬合の状態と治療方法などを学び、適切な診療補助を行う能力を身につける。また、矯正治療中の口腔清掃指導や、患者管理を行うことが出来る能力を身につける。
成績評価	出席・筆記試験の成績で総合評価する。

回数	授業内容
1	矯正歯科治療の概要
2	成長発育
3	頭蓋及び顎顔面の成長発育
4	正常咬合と不正咬合
5	不正咬合の状態
6	矯正歯科治療における診断
7	矯正歯科治療と力
8	上下顎の前後的關係の不調和
9	成人矯正・口腔顎顔面の形成異常と奇形
10	歯の埋状と歯数の異常
11	矯正歯科診断に関わる業務
12	矯正歯科用材料と使用方法
13	矯正歯科患者と口腔保健管理
14	器材・資料・文書の管理
15	まとめ

教科書	歯科衛生学シリーズ 歯科矯正学 医歯薬出版株式会社
-----	---------------------------

授業科目	歯科放射線学				【講義】	学 科	歯科衛生士学科		
学年	2	学期	前期	単位	1	時間	15	担当教員	小村 徳行

科目の特徴 (ねらい)	放射線は歯科臨床において欠かすことのできない一分野である。 画像機器の進歩に伴い、診断における画像検査の重要性が年々増加している。我々医療従事者は、放射線の利益と害を理解し、患者にとって有益に使用していく必要がある。これらをふまえて、将来歯科衛生士になるにあたりその役割を認識し、放射線を安全かつ有効に扱える様になるために必要な知識と技能を習得することを目的とする。
成績評価	筆記方式による定期試験。レポート評価。出席状況。授業態度等を考慮し総合的に判断する。

回数	授業内容
1	第一・第二章 歯科医療と放射線・X線画像の形成
2	第二章・第三章 X線画像の形成・歯科におけるX線検査
3	第三章・第四章 歯科におけるX線検査・口内法X線撮影の実際と歯科衛生士の役割
4	第四章・第五章 口内法X線撮影およびパノラマ撮影の実際と歯科衛生士の役割
5	上顎口内法撮影実習・模擬テスト
6	下顎口内法撮影実習・模擬テスト
7	パノラマX線写真撮影実習・レポート作成
8	第六章・第七章 写真処理と画像保管の実際・放射線治療と口腔管理

教科書	歯科衛生学シリーズ 歯科放射線学 医歯薬出版株式会社
-----	----------------------------

授業科目	高齢者歯科学				【講義】	学 科	歯科衛生士学科		
学年	3	学期	前期	単位	1	時間	15	担当教員	青木 良仁 (歯科医師)

科目の特徴 (ねらい)	<p>現代社会において、大きな課題となっている高齢者に対応する臨床現場において、高齢者全体の特性を理解し、特徴である個々人の状況に応じて適切な歯科医療を提供する歯科衛生士の業務特性を理解する。</p> <p>また口腔機能を健全に保つことが高齢者にとって要事項となるため、保全に対しての方法や高齢者の口腔疾患の特徴、全身疾患との関連を知り、臨床に応用するための基礎知識を修得する。</p>
成績評価	出席状況・授業態度・提出物・定期試験などの成績で総合評価する。

回数	授業内容
1	高齢者をとりまく社会と環境
2	加齢による身体的・精神的変化と疾患
3	高齢者の状態の把握
4	口腔のケア
5	摂食嚥下リハビリテーション
6	高齢者に関わる医療と介護
7	高齢者歯科における歯科衛生過程
8	歯科衛生過程の事例

教科書	歯科衛生学シリーズ 高齢者歯科学 医歯薬出版株式会社
-----	----------------------------

授業科目	障害者歯科学				【講義】	学 科	歯科衛生士学科
学年	3	学期	後期	単位	1	時間	15
						担当教員	吉田 悦子

科目の特徴 (ねらい)	障害者の歯科治療を円滑に行うために、スペシャルニーズを理解する。 健康支援、口腔衛生管理、摂食・嚥下リハビリテーションと歯科衛生士の役割を理解する。
成績評価	出席・筆記試験の成績で総合評価する。

回数	授業内容
1	傷害の概念とスペシャルニーズを理解する。 ノーマライゼーションとバリアフリーを説明できる。
2	歯科分野でスペシャルニーズが必要な疾患を理解する。 精神遅滞、身体障害、感覚障害と関連の主な障害を理解する。
3	歯科分野でスペシャルニーズが必要な疾患を理解する。 音声言語障害への対応を説明する。精神障害と関連の主な障害を説明できる。
4	それぞれの障害の口腔の特徴を説明できる。 障害者歯科で用いられる行動調整法と歯科衛生士の役割を理解する。
5	障害や疾患別の口腔衛生管理を説明できる。
6	正常な摂食・嚥下機能の発達について理解し、摂食・嚥下リハビリテーションにおける歯科衛生士の役割について説明できる。
7	地域における障害者歯科での歯科衛生士の役割を理解する。
8	障害者歯科における歯科衛生過程から歯科衛生士業務の意義を理解する。

教科書	歯科衛生学シリーズ 障害者歯科学 医歯薬出版株式会社
-----	----------------------------

授業科目	歯科臨床工学				【講義】	学 科	歯科衛生士学科		
学年	1	学期	後期	単位	1	時間	15	担当教員	青木 良仁 (歯科医師)

科目の特徴 (ねらい)	歯科診療で用いる歯科材料を正しく使用するために、基礎知識を習得し治療内容に沿った歯科材料の取り扱いが出来るようにする。
成績評価	出席・筆記試験の成績で総合評価する。

回数	授業内容
1	歯科材料について…歯科医療に果たす役割要求される性質について理解する。 成形修復材料…コンポジットレジン・種類・組成・硬化機構・特徴
2	成形修復材料…グラスアイオノマーセメント・アマルガムについて 印象材料の種類・組成・硬化機構・特徴(アルジネート・
3	ゴム質印象材・その他の印象材の種類・組成・組織・硬化機構・特徴 ワックスの種類と使い方・仮封材の種類・石膏・暫間被覆冠・即時重合レジン
4	寒天・アルジネート連合印象採得実習・石膏盛り ゴム質印象材の取り扱い
5	合着材及び接着剤 研磨と研磨材・シーラント
6	局部床義歯の維持装置とインプラント材料・人と歯及び床用材料 鑄造・ろう付け・重合…クラウンブリッジに応用される材料
7	接着システム…コンポジットレジン・グラスアイオノマーセメントの取り扱い 合着材料、接着材の取り扱い
8	まとめ 後期試験対策

教科書	歯科衛生学シリーズ 歯科材料 医歯薬出版株式会社
-----	--------------------------

授業科目	歯科予防処置論Ⅰ 【講義】				学 科	歯科衛生士学科			
学年	1	学期	前期	単位	3	時間	45	担当教員	山口 景子（歯科衛生士）

科目の特徴 (ねらい)	<p>齲蝕を予防し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進させるために専門的な技術、技能、および態度を習得する。</p> <p>齲蝕予防処置に対応するために、齲蝕活動性試験・フッ化物応用法・小窩裂溝填塞法・フッ化ジアンミン銀塗布法の基礎知識を関連付け総合的に理解する。</p>
成績評価	<p>定期試験、学習態度による総合判定とする。</p> <p>定期試験は100点満点とし、60点以上の場合、合格とする。</p>

回数	授業内容	
1	基礎知識	組織の健康像 歯の構造と名称
2	序説	1. 齲蝕予防処置法とは 2. 齲蝕予防処置法の種類 3. 齲蝕予防処置法における歯科衛生士の役割
3	齲蝕の知識	1. 齲蝕とは 2. プラークのなりたちと齲蝕
4	歯および唾液と フッ化物応用の知識	1. エナメル質表層の知識 2. 唾液の知識 3. フッ化物応用の知識
5		
6	齲蝕活動性試験	1. 齲蝕活動性試験とは 2. 齲蝕活動性の種類 3. 齲蝕活動性試験の実習 4. 各自の齲蝕リスクの分析
7		
8		
9		小テスト 回答 まとめ
10	齲蝕予防処置法	1. 齲蝕予防処置法の基礎知識 2. フッ化物局所応用法 ①効果 ②作用機序 ③特徴・術式・安全性
11		フッ化ジアンミン銀の応用 ①効果 ②作用機序 ③特徴・術式・安全性
12		小窩裂溝填塞法の応用 ①効果 ②作用機序 ③手段・術式・安全性

13	フッ化物溶液歯面塗布法	フッ化物の応用 ①フッ化物溶液の薬剤の種類と特徴 ②フッ化物歯面塗布法の種類 ③綿球に含まれる溶液量の確認実習
14	フッ化物溶液歯面塗布法 綿球塗布法 相互実習	綿球塗布法の相互実習
15	イオン導入法	①原理と使用法 ②実習
16	フッ化物ゲル歯面塗布法	①フッ化物ゲルの応用 ②フッ化物ゲルの特徴 ③塗布実習
17		
18	フッ化ジアンミン銀溶液 塗布法	①フッ化ジアンミン銀とは ②抜去歯への塗布実習 ③着色・脱色実習
19		
20	小窩裂溝填塞法	①種類・手順・適応 ②填塞実習
21		
22	齲蝕予防処置法の臨床	齲蝕予防処置法における臨床応用の配慮点
23	〈集団応用編〉 齲蝕予防処置集団応用の 考え方	①集団応用の特徴 ②集団応用の場面 ③集団応用に用いられる齲蝕予防処置法

教科書	歯科衛生士のための齲蝕予防処置法 第2版 医歯薬出版株式会社 歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論 医歯薬出版株式会社
-----	---

授業科目	歯科予防処置論Ⅱ 【講義】				学 科	歯科衛生士学科			
学年	1	学期	後期	単位	2	時間	30	担当教員	山口 景子 (歯科衛生士)

科目の特徴 (ねらい)	【予防的歯石除去法】歯周病を予防し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進させるために基本的・専門的な知識を習得する。 歯周組織および歯周病の基本的知識に基づいて歯周病予防に必要な歯石除去法の基本技術を理解し習得する。
成績評価	定期試験、学習態度による総合判定とする。 定期試験は100点満点とし、60点以上の場合、合格とする。

回数	授業内容	
1	〈総論〉 歯科予防処置の概要	①歯科予防処置の定義 ②歯科予防処置の内容 ③健康の概念・予防の概念
2	〈歯科予防処置の 基礎知識〉 口腔の基礎知識	①口腔の構造 ②歯周組織 ③歯冠と歯根の形態
3	齲蝕と歯周病の基礎知識	①口腔内の付着物・沈着物 ②齲蝕とは ③歯周病とは
4	探針操作	①口腔内の観察 ②エクスプローラーの種類・使用目的・使用法 ③把持法・姿勢・固定 ④ミラーテクニック
5	口腔内診査1	①歯周診査用器材 ②プローブの種類・使用目的・使用法
6	口腔内診査2	①プロービング ②AL、PD、付着歯肉幅測定、動揺度、BOP
7	手用スケーラー	構成・把持法・使用原則・種類・操作方法
8	スケーラーの操作①	シッケルタイプスケーラーの基本操作
9	スケーラーの操作②	キュレットタイプスケーラーの基本操作
10		
11	歯面研磨・歯面清掃	①歯面研磨の目的・種類 ②使用器材・操作方法 ③歯面清掃の目的(歯面清掃器の使用法・注意)
12	超音波スケーラー	①原理・構成・特徴 ②使用法・注意事項

13	エアスケーラー	①原理・構成・特徴 ②使用法・注意事項
14	偶発事故の防止と対策	①偶発事故とは ②原因・防止と対策
15	テスト	復習・小テスト

教科書	歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論 医歯薬出版株式会社 歯科衛生学シリーズ 歯周病学 医歯薬出版株式会社
-----	---

授業科目	歯科予防処置実習Ⅰ 【実習】					学 科	歯科衛生士学科		
学年	1	学期	後期	単位	1	時間	30	担当教員	山口 景子 (歯科衛生士)

科目の特徴 (ねらい)	【予防的歯石除去法】歯周病を予防し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進させるために基本的な技術、技能、および態度を習得する。 歯周病予防に必要な歯周組織検査、歯石除去、歯面研磨の基本技術を習得する。
成績評価	定期試験、学習態度による総合判定とする。 定期試験は100点満点とし、60点以上の場合、合格とする。

回数	授業内容	
1	探針操作実習 (顎模型上)	①使用目的・種類 ②操作方法(把持法・固定・姿勢)
2	プローブ操作実習	①使用目的・種類・測定部位 ②操作方法…手指の感覚
3	鎌型スケーラー・ 鋭匙型スケーラー 操作実習	①操作の4原則 ②把持法 ③操作方法
4	マネキンの取り扱いかた	マネキンの取り扱い、つけ方実習
5	プローブ実習 (マネキン)	①プロービング測定実習 ②測定値記入方法
6		
7	探針・ 鎌型スケーラー操作 上顎前歯部	マネキン実習 探針、スケーラーの把持法、動かし方、ポジショニング
8	探針・ 鎌型スケーラー操作 下顎前歯部	マネキン実習 探針、スケーラーの把持法、動かし方、ポジショニング
9	鋭匙型スケーラー操作 上顎前歯部	マネキン実習 鋭匙型スケーラーの把持法、動かし方、ポジショニング
10	鋭匙型スケーラー操作 上顎臼歯部	マネキン実習 鋭匙型スケーラーの把持法、動かし方、ポジショニング
11	鋭匙型スケーラー操作 下顎前歯部	マネキン実習 鋭匙型スケーラーの把持法、動かし方、ポジショニング
12	鋭匙型スケーラー操作 下顎臼歯部	マネキン実習 鋭匙型スケーラーの把持法、動かし方、ポジショニング
13	歯面研磨・洗浄・貼薬	マネキン実習 歯面研磨、コントラアングルの使用方法

14	超音波スケーラー エアスケーラー 歯面清掃器	準備・片付けの仕方 使用方法 バキュームテクニック
15	スケーリングテスト	マネキン実習におけるのまとめテスト

教科書	歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論 医歯薬出版株式会社 歯科衛生学シリーズ 歯周病学 医歯薬出版株式会社
-----	---

授業科目	歯科予防処置実習Ⅱ 【実習】				学 科	歯科衛生士学科			
学年	2	学期	前期	単位	1	時間	30	担当教員	山口 景子（歯科衛生士）

科目の特徴 (ねらい)	【予防的歯石除去法】歯周病を予防し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進させるために基本的な知識をもとに専門的な技術、技能、および態度を習得する。 歯周病予防に必要な歯周組織検査、歯石除去、歯面研磨の操作技術を習得する。
成績評価	定期試験、学習態度による総合判定とする。 定期試験・実技試験は100点満点とし、60点以上の場合、合格とする。

回数	授業内容	
1	基礎知識	歯科予防処置とは 歯周疾患の分類 歯肉のよみとり
2	エクスプローリング・ プロービング	歯周診査用エクスプローラーの使用 方法 プローブの使用 方法
3	スケーリング	基本操作、ポジショニング
4		問診、口腔内状態の把握、記録の記入方法
5	相互実習 歯周組織検査	問診、口腔内審査、沈着物の判定、 プロービング、動揺度、 出血度
6		
7	超音波スケーラー・PMTc	上顎・下顎
8		
9	手用スケーラー・ 歯面研磨・洗浄・貼薬	グレーシートタイプキュレットスケーラーによる 下顎前歯部・下顎臼歯部 上顎前歯部・上顎臼歯部
10		
11		
12		
13	シャープニング	器具・器材・操作方法 基本操作・実習
14		
15	まとめ	小テスト まとめ

教科書	歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論 医歯薬出版株式会社 歯科衛生学シリーズ 歯周病学 医歯薬出版株式会社
-----	---

授業科目	歯科予防処置実習Ⅲ 【実習】				学 科	歯科衛生士学科			
学年	2	学期	後期	単位	1	時間	30	担当教員	山口 景子 (歯科衛生士)

科目の特徴 (ねらい)	人々のニーズにあった支援をするために論理的に思考し、問題発見および解決できる知識・技術を習得する。 対象者を理解し、対象者にあった歯科衛生介入方法を計画し、それに基づいて実践、評価していく過程を習得し記録できる。
成績評価	定期試験、学習態度による総合判定とする。 定期試験は100点満点とし、60点以上の場合、合格とする。

回数	授業内容	
1		歯科衛生過程とは 歯科衛生過程の6つの要素 歯科衛生アセスメント
2	歯科衛生過程の進め方	歯科衛生診断 歯科衛生計画立案 歯科衛生介入 歯科衛生評価
3		展開例による歯科衛生アセスメント
4	歯科衛生過程の展開例	展開例による歯科衛生診断、優先順位
5		展開例による歯科衛生計画、歯科衛生介入、歯科衛生評価
6		例題に対する演習
7	歯科衛生過程演習	
8		
9		
10		歯科衛生過程をふまえての実習
11	実習	
12		
13		
14	テスト	まとめテスト
15	まとめ	実習の反省・感想・見直し

教科書	歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論 医歯薬出版株式会社 歯科衛生士教育サブテキスト「歯科衛生過程HANDOBOOK」
-----	---

授業科目	栄養学・栄養指導				【講義】	学 科	歯科衛生士学科		
学年	1	学期	後期	単位	2	時間	30	担当教員	高橋 栄美子 (歯科衛生士)

科目の特徴 (ねらい)	口腔は食物の入口であり、食品は直接口腔疾患と関係することを理解し、人々の口腔の健康を維持・増進させるために活かせる知識を習得する。
成績評価	出席・授業態度・提出物・筆記試験の成績で総合評価する。

回数	授業内容
1	栄養の知識を学ぶ意義を知る
2	現代人の食物の摂取における栄養上の問題点を学ぶ
3	糖質の栄養学的意味
4	タンパク質の栄養学意味
5	脂質の栄養学的意味
6	ビタミンの栄養学的意味
7	ミネラルの栄養学的意味
8	水の栄養学的意味
9	食物繊維の栄養学的意味
10	栄養素の消化・吸収
11	食事摂取基準
12	食生活と健康
13	ライフステージ別の栄養①成長期・成人期における栄養と調理の特性
14	ライフステージ別の栄養②高齢期における栄養と調理の特性
15	まとめ

教科書	歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能2 栄養と代謝 医歯薬出版株式会社
-----	-------------------------------------

授業科目	歯科保健指導論 I 【講義】				学 科	歯科衛生士学科			
学年	1	学期	後期	単位	2	時間	30	担当教員	高橋 栄美子 (歯科衛生士)

科目の特徴 (ねらい)	歯科保健指導は、歯科衛生士にとって近年最も重要な仕事の分野を占めるようになって いる。年齢に合わせた指導や全く異なった環境下で生活している個人にふさわしい歯科 保健指導ができるよう、専門的な知識や問題解決能力、コミュニケーション能力を身につ けることをねらいとしている。
成績評価	出席・授業態度・筆記試験の成績で総合評価する。

回数	授業内容
1	総論(定義、健康とは)
2	歯科保健指導実施のための基礎知識
3	行動変容、食生活指導の基礎
4	歯ブラシの目的と形態
5	ブラッシング法①
6	その他の清掃方法①(デンタルフロス、歯間ブラシ、タフトブラシ、トゥースピック)
7	その他の清掃方法①(スポンジブラシ、舌ブラシ、義歯用ブラシ、自助ブラシ)
8	歯磨剤、洗口剤、歯垢染色剤
9	ブラッシング法②
10	ブラッシング相互実習
11	分析のためのデータ①(PCR)
12	分析のためのデータ②(OHI, OHI-S)
13	分析のためのデータ③(PII, PHP)
14	電動歯ブラシ
15	まとめ

教科書	歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論 医歯薬出版株式会社
-----	-------------------------------------

授業科目	歯科保健指導論Ⅱ 【講義】				学 科	歯科衛生士学科			
学年	2	学期	後期	単位	2	時間	30	担当教員	高橋 栄美子 (歯科衛生士)

科目の特徴 (ねらい)	<p>歯科医療の専門職として口腔内に直接関与できるという特性を活かし、歯科衛生士と摂食嚥下の関わりについて学ぶ。</p> <p>人口の高齢化が急速に進むなか、高齢に関係する疾患や摂食嚥下障害に対する専門的な知識を身につける。</p>
成績評価	出席・授業態度・提出物・筆記試験の成績で総合評価する。

回数	授業内容
1	高齢者とは(現状・特性について)
2	高齢者の口腔機能・低栄養について
3	口腔機能低下症 口腔機能管理
4	車いすのしくみ 操作の仕方
5	車いすの移乗・介助
6	デンチャーケアについて
7	口腔機能的問題の把握
8	視覚障害者の歩行介助
9	摂食嚥下のプロセス・摂食嚥下障害の原因
10	摂食嚥下の評価
11	摂食嚥下障害に対する食事指導
12	摂食嚥下障害に対する訓練(間接訓練、直接訓練)
13	摂食嚥下障害患者に対する口腔衛生管理
14	高齢者に多い全身疾患
15	まとめ

教科書	<p>歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置・歯科保健指導 医歯薬出版株式会社</p> <p>歯科衛生学シリーズ 高齢者歯科学 医歯薬出版株式会社</p> <p>歯科衛生士のための摂食嚥下リハビリテーション 医歯薬出版株式会社</p>
-----	--

授業科目	歯科保健指導論Ⅲ 【講義】					学 科	歯科衛生士学科		
学年	3	学期	後期	単位	2	時間	30	担当教員	高橋 栄美子 (歯科衛生士)

科目の特徴 (ねらい)	<p>集団を対象に歯科保健指導をするための基礎知識を学び、伝達の技法やコミュニケーション能力を身につけることをねらいとする。</p> <p>集団指導をするための指導計画をグループで作成し、展開する能力を身につけることをねらいとする。</p>
成績評価	出席・授業態度・筆記試験の成績で総合評価する。

回数	授業内容
1	集団指導法の目的、基礎知識について
2	臨地実習 原稿作成 媒体作成
3	リハーサル
4	臨地実習 原稿作成 媒体作成
5	リハーサル
6	臨地実習 原稿作成 媒体作成
7	PDCAサイクルに基づき評価・改善
8	臨地実習 原稿の推敲
9	実習発表後の感想、反省点のまとめ
10	国家試験対策
11	国家試験対策
12	国家試験対策
13	国家試験対策
14	国家試験対策
15	国家試験対策

教科書	歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論 医歯薬出版株式会社
-----	-------------------------------------

授業科目	歯科保健指導実習Ⅰ【実習】				学 科	歯科衛生士学科			
学年	2	学期	前期	単位	1	時間	30	担当教員	高橋 栄美子（歯科衛生士）

科目の特徴 (ねらい)	<p>歯科保健指導論を理解したうえで、個人の生活環境などを把握・改善しながら健康づくりを支援していく。</p> <p>ライフステージの介入ができるよう、各ライフステージの一般的特徴や口腔の特徴など、基礎的な知識や専門的な知識・技術、問題能力、コミュニケーション能力を身につけることをねらいとしている。</p> <p>各ライフステージにおける特徴を説明できる。</p> <p>各ライフステージに応じた指導ができる。</p>
成績評価	出席・授業態度・筆記試験の成績で総合評価する。

回数	授業内容
1	新生児期①(一般的特徴、口腔の特徴)
2	新生児期②(口腔機能の獲得、歯科保健指導)
3	乳幼児期①(一般的特徴、口腔の特徴)
4	乳幼児期②(口腔機能の獲得(1))
5	乳幼児③(口腔機能の獲得(2))
6	乳幼児期④(口腔機能の獲得(3))
7	乳幼児期⑤(歯科保健指導、食生活指導)
8	妊産婦期①(一般的特徴、口腔の特徴)
9	妊産婦期②(歯科保健指導、食生活指導)
10	学童期①小学校低学年・中学年(一般的特徴、口腔の特徴、歯科保健指導)
11	学童期②小学校高学年・中学校(一般的特徴、口腔の特徴、歯科保健指導)
12	青年期(一般的特徴、口腔の特徴、歯科保健指導)
13	成人期、禁煙指導
14	老年期
15	後期まとめ

教科書	<p>歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論 医歯薬出版株式会社</p> <p>オーラルヘルスケア事典 他</p>
-----	---

授業科目	歯科保健指導実習Ⅱ 【実習】				学 科	歯科衛生士学科			
学年	3	学期	前期	単位	1	時間	30	担当教員	高橋 栄美子（歯科衛生士）

科目の特徴 (ねらい)	近年、小集団を対象に歯科保健指導をする機会が増えてきている。このような場合でも基礎知識を身に付け臨床の現場では技術的な伝達の技法を身に付ける。 小集団の基本的な技法を習得するため、グループ実習を行い作成から発表までを行う。
成績評価	出席・授業態度・筆記試験の成績で総合評価する。

回数	授業内容
1	地域歯科保健における健康教育について
2	健康教育における媒体の種類について
3	学齢期復習 臨地実習 原稿作成
4	臨地実習 原稿作成
5	臨地実習 原稿作成 媒体作成
6	臨地実習 原稿作成 媒体作成
7	臨地実習 原稿作成 媒体作成
8	臨地実習 原稿作成 媒体作成
9	臨地実習 原稿作成 媒体作成
10	リハーサル
11	幼児期の特徴を学ぶ 臨地実習 原稿作成
12	臨地実習 原稿作成 媒体作成
13	臨時実習 原稿作成 媒体作成
14	臨時実習 原稿作成 媒体作成
15	前期のまとめ

教科書	歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論 医歯薬出版株式会社
-----	-------------------------------------

授業科目	歯科診療補助論 I 【講義】				学 科	歯科衛生士学科			
学年	1	学期	前期	単位	2	時間	30	担当教員	木村 寿子 (歯科衛生士)

科目の特徴 (ねらい)	歯科診療補助に必要な基礎知識・技術を習得し、診療の流れを理解する。 歯科診療補助を理解し、患者に対する直接対面行為の基礎を習得する。
成績評価	定期試験や学習態度を総合的に判断する。 60点に満たない場合は再試験を行う。

回数	授業内容
1	総論から医療安全まで
2	第2章 感染予防 手指消毒
3	感染管理・廃棄物について
4	共同動作
5	歯科材料・印象材について
6	歯科材料 石膏について
7	歯科衛生材料について
8	バキュームテクニック・3Wシリンジテクニックについて
9	バキュームテクニック・3Wシリンジテクニックについて
10	口腔内カメラ撮影について
11	口腔内カメラ撮影について
12	口腔内カメラ撮影について
13	歯科材料 セメント実習
14	歯科材料 仮封材について
15	まとめ

教科書	歯科衛生学シリーズ教本 歯科診療補助論 医歯薬出版株式会社 歯科衛生学シリーズ教本 歯科材料 医歯薬出版株式会社 歯科衛生学シリーズ教本 歯科機器 医歯薬出版株式会社
-----	---

授業科目	歯科診療補助論Ⅱ 【講義】					学 科	歯科衛生士学科		
学年	1	学期	後期	単位	1	時間	15	担当教員	苫米地 瑞穂(歯科衛生士)

学科の特徴 (ねらい)	治療で取り扱う材料や器具などの基礎知識を習得した上で、各治療に応じた歯科診療補助が理解できる。 各治療に応じた患者指導ができる。
成績評価	定期試験や学習態度で総合判断をする。 定期試験で60点未満の者は再試験を行う。

回数	授業内容
1	歯間分離・隔壁法の種類や取り扱い方法
2	切削器具の種類、特徴、取り扱い方法
3	成形歯冠修復材料の特性、各材料に応じた治療の流れ
4	間接修復に必要な器具、治療の流れ
5	ラバーダム防湿の使用目的、準備、術式
6	口腔外科治療時の歯科衛生士としての留意点、各治療に応じた器具や術式・患者指導
7	歯内療法に使用する器具や材料、治療の流れ・患者指導
8	診療録の記入方法について
教科書	歯科衛生学シリーズ 歯科診療補助論 医歯薬出版株式会社 歯科衛生学シリーズ 歯科材料 医歯薬出版株式会社 歯科衛生学シリーズ 顎・口腔粘膜疾患 口腔外科・歯科麻酔 医歯薬出版株式会社 歯科衛生学シリーズ 歯の硬組織・歯髄疾患 保存修復・歯内療法 医歯薬出版株式会社 歯科衛生学シリーズ 歯科機器 医歯薬出版株式会社

授業科目	歯科診療補助論Ⅲ 【講義】				学 科	歯科衛生士学科			
学年	2	学期	前期	単位	1	時間	15	担当教員	木村 寿子 (歯科衛生士)

科目の特徴 (ねらい)	1年次に学習した基礎知識を基に、各分野における歯科診療補助を学習する。 各分野の理解を深め、歯科診療の補助に必要な知識を習得する。
成績評価	定期試験や学習態度を総合的に判断する。 60点に満たない場合は再試験を行う。

回数	授業内容
1	臨床の流れ、診療録 歯式の記入について
2	歯科保存 コンポジットレジン修復について
3	歯科保存 間接修復 メタルインレー修復について
4	歯内療法 麻酔抜髄について
5	歯内療法 根管充填について
6	歯科補綴 暫間被覆冠制作
7	歯科補綴 クラウン・ブリッジ 器材セッティング
8	歯科補綴 有床義歯・総義歯・局部義歯 器材セッティング
9	材料の取り扱い 印象材(ゴム質印象材・石膏・接着性レジンセメント)
10	歯科放射線学 患者セッティング・処理方法
11	歯周外科 各症例 適応症・術式・器材セッティング
12	口腔外科 小手術 適応性・術式・器材セッティング
13	歯科矯正 目的・段階・診断・装置・口腔習癖 口腔衛生管理
14	歯科矯正 装置・器具器材 名称・用途
15	審美歯科 ホワイトニング・CAD/CAM冠 歯科用レーザー機器

教科書	歯科衛生学シリーズ教本	歯科診療補助論	医歯薬出版株式会社	
	歯科衛生学シリーズ教本	歯科材料	医歯薬出版株式会社	
	歯科衛生学シリーズ教本	歯科機器	医歯薬出版株式会社	
	歯科衛生学シリーズ教本	顎・口腔粘膜疾患	口腔外科・歯科麻酔	医歯薬出版株式会社
	歯科衛生学シリーズ教本	歯の硬組織・歯髄疾患	保存修復・歯内療法	医歯薬出版株式会社
	歯科衛生学シリーズ教本	歯科矯正	医歯薬出版株式会社	
	歯科衛生学シリーズ教本	歯科補綴学	医歯薬出版株式会社	
	歯科衛生学シリーズ教本	小児歯科学	医歯薬出版株式会社	
	歯科衛生学シリーズ教本	歯科放射線学	医歯薬出版株式会社	

授業科目	歯科診療補助論Ⅳ 【実習】				学 科	歯科衛生士学科			
学年	3	学期	後期	単位	1	時間	30	担当教員	米満 正美 (歯科医師)

科目の特徴 (ねらい)	歯科医学を学び医療人として社会に貢献できるようになるために、臨床検査の基本的な内容を理解する。
成績評価	出席・授業態度・筆記試験の成績で総合評価する。

回数	授業内容
1	序論 (1)臨床検査の目的と必要性を説明できる。 (2)臨床検査の種類を概説できる。 (3)検査結果について説明できる。
2	生理機能検査 (1)バイタルサインについて説明できる。 (2)心機能検査について説明できる。 (3)肺機能検査について説明できる。 (4)閉塞性睡眠時無呼吸の検査について説明できる。
3	血液学的検査 (1)血液の成分と役割について説明できる。 (2)赤血球の検査について説明できる。 (3)白血球の検査について説明できる。 (4)出血・凝固系検査について説明できる。 (5)血中酵素濃度検査を説明できる。
4	感染症の検査 (1)微生物学的検査について説明できる。 (2)感染症に関わる血液学的監査について説明できる。 (3)主な感染症の検査について概説できる。
5	肝機能検査 (1)肝臓の構造と機能について説明できる。 (2)肝機能検査について説明できる。 (3)肝機能の検査に関わる疾患について説明できる。
6	腎機能の検査 (1)腎臓の構造と機能について説明できる。 (2)主な腎臓の検査について説明できる。 (3)腎機能の検査に関わる疾患について説明できる。
7	糖尿病の検査 (1)糖代謝のメカニズムについて説明できる。 (2)糖尿病の検査について説明できる。 (3)糖尿病の原因と治療について説明できる。
8	代謝・内分泌疾患の検査 (1)金属(微量元素)の検査について説明できる。 (2)ビタミンの検査について説明できる。 (3)ホルモンの検査について説明できる。

9	<p>免疫・結成学的検査</p> <p>(1) 免疫について説明できる。</p> <p>(2) アレルギー検査について説明できる。</p> <p>(3) 自己免疫疾患の検査について説明できる。</p> <p>(4) 輸血に関する検査について説明できる。</p> <p>(5) 悪性腫瘍の検査について説明できる。</p>
10	<p>病理学的検査</p> <p>(1) 病理学的検査について説明できる。</p> <p>(2) 細胞診について説明できる。</p> <p>(3) 組織診について説明できる。</p>
11	<p>画像検査</p> <p>(1) エックス線検査について説明できる。</p> <p>(2) CT検査について説明できる。</p> <p>(3) MRI検査について説明できる。</p> <p>(4) 核医学検査について説明できる。</p> <p>(5) 超音波検査について説明できる。</p> <p>(6) 骨量検査について説明できる。</p> <p>(7) 内視鏡検査について説明できる。</p>
12	<p>口腔領域の臨床検査(1)</p> <p>(1) う蝕の検査について説明できる。</p> <p>(2) 歯周病の検査について説明できる。</p>
13	<p>口腔領域の臨床検査(2)</p> <p>(1) 口臭の検査について説明できる。</p> <p>(2) 味覚の検査について説明できる。</p> <p>(3) 口腔カンジダ症の検査について説明できる。</p> <p>(4) 口腔機能低下症の検査について説明できる。</p> <p>(5) 摂食嚥下障害の検査について説明できる。</p>
14	主な全身疾患の検査項目(1)
15	主な全身疾患の検査項目(2)

教科書	<p>歯科衛生学シリーズ 臨床検査 医歯薬出版株式会社</p>
-----	---------------------------------

授業科目	歯科診療補助実習Ⅰ【実習】				学 科	歯科衛生士学科			
学年	1	学期	前期	単位	1	時間	30	担当教員	木村 寿子（歯科衛生士）

科目の特徴 (ねらい)	<p>歯科診療補助を行うにあたり、その内容を具体的に理解し、必要な器具や器材が準備できるようにする。歯科衛生士になるという自覚を持ち、歯科診療がスムーズに行えるよう実習を通じて理解する。</p> <p>歯科診療に対する理解を深め、技術を磨くと同時に患者さんへの思いやりを育む。</p>
成績評価	実技試験はもちろんのこと、学習態度等を総合的に評価する。

回数	授業内容
1	第1章 歯科診療補助の概念
2	第2章 感染予防 滅菌・消毒 手指消毒
3	歯科診療における基礎知識 ユニット操作
4	共同動作 実習
5	共同動作 実習
6	歯科材料・印象材について
7	印象採得 実習 片顎
8	印象採得 実習 全顎
9	歯科材料・石膏について
10	歯科材料・石膏トリミングについて
11	口腔内カメラ撮影実習 口腔内洗浄・バキューム相互実習
12	口腔内カメラ撮影実習 口腔内洗浄・バキューム相互実習
13	口腔内カメラ撮影実習 口腔内洗浄・バキューム相互実習
14	歯科材料 セメント練和実習
15	歯科材料 仮封材実習について

教科書	歯科衛生学シリーズ 歯科診療補助論 医歯薬出版株式会社 歯科衛生学シリーズ 歯科材料 医歯薬出版株式会社 歯科衛生学シリーズ 歯科機器 医歯薬出版株式会社
-----	---

授業科目	歯科診療補助実習Ⅱ 【実習】				学 科	歯科衛生士学科			
学年	1	学期	後期	単位	1	時間	30	担当教員	苔米地 瑞穂(歯科衛生士)

学科の特徴 (ねらい)	各治療に使用する材料・器具の名称や特徴、用途を理解した上で必要な器具 器材を準備できる。 相互実習を通して患者さんの気持ちも理解し、迅速かつ丁寧に行動することを 習慣化する。
成績評価	定期試験や学習態度で総合判断をする。 定期試験で60点未満の者は再試験を行う。

回数	授業内容	
1	歯間分離・隔壁法	使用器具、名称、用途を理解し手順に沿って実習を行う
2		
3	切削器具	バーやポイントの形態・用途を理解し、切削器具の準備・着脱を行う
4		
5	成形歯冠修復	CR・GI修復の使用器具・術式を理解し、接着システムに応じた補助
6		
7	間接修復	間接修復の流れを理解し、寒天、ゴム質印象での精密印象採得時の 器材の準備、補助
8		
9	ラバーダム防湿	使用目的、器材、術式を理解し、マネキン実習(1歯露出、2歯露出)相 互実習(1歯露出)を行う
10		
11		
12	口腔外科	外科器具の名称・用途を理解し、準備ができる。麻酔、縫合、メスの セッティング、受け渡し
13		
14	歯内療法	歯内療法の一連の流れを理解する。器具の名称・用途を理解し、準備 ができる
15	まとめ	後期試験に向けての説明・実技練習

教科書	歯科衛生学シリーズ 歯科診療補助論 医歯薬出版株式会社 歯科衛生学シリーズ 歯科材料 医歯薬出版株式会社 歯科衛生学シリーズ 歯科機器 医歯薬出版株式会社
-----	---

授業科目	歯科診療補助実習Ⅲ 【実習】				学 科	歯科衛生士学科			
学年	2	学期	前期	単位	1	時間	30	担当教員	木村 寿子（歯科衛生士）

科目の特徴 (ねらい)	1年次に学習した基礎知識を基に、歯科器材の取り扱い方、術者との共同動作、エックス線撮影法、各分野における処置別歯科診療補助を学習する。 臨床における、患者に対する直接対面行為を習得する。
成績評価	定期試験や学習態度を総合的に判断する。 60点に満たない場合は再試験を行う。

回数	授業内容
1	臨床の流れ 清潔・不潔がわかる 診療の準備ができる
2	歯科保存 コンポジットレジン修復 器材セッティング・術式・診療の補助
3	歯科保存 メタルインレー修復 器材セッティング・術式・診療の補助
4	歯内療法 麻酔抜髄 器材セッティング・術式・診療の補助
5	歯内療法 根管充填 器材セッティング・術式・診療の補助
6	歯科補綴 暫間被覆冠制作 シェルクラウン・ブロック法・印象法
7	歯科補綴 クラウン・ブリッジ 器材セッティング・術式・診療の補助
8	歯科補綴 有床義歯・総義歯・局部義歯 器材セッティング・術式・診療の補助
9	材料の取り扱い 相互実習
10	歯科放射線学 患者セッティング・処理方法
11	歯周外科 各症例 適応症・術式・器材セッティング 歯肉包帯材練和
12	口腔外科 小手術 適応症・術式・器材セッティング 診療の補助
13	歯科矯正 目的・段階・診断・装置・口腔習癖 口腔衛生管理
14	歯科矯正 装置・器具器材 名称・用途 器材セッティング 診療の補助
15	前期試験に向けて 各項目の実習 総まとめ

教科書	歯科衛生学シリーズ	歯科診療補助論	医歯薬出版株式会社	
	歯科衛生学シリーズ	歯科材料	医歯薬出版株式会社	
	歯科衛生学シリーズ	歯科機器	医歯薬出版株式会社	
	歯科衛生学シリーズ	顎・口腔粘膜疾患	口腔外科・歯科麻酔	医歯薬出版株式会社
	歯科衛生学シリーズ	歯の硬組織・歯髄疾患	保存修復・歯内療法	医歯薬出版株式会社
	歯科衛生学シリーズ	歯科矯正	医歯薬出版株式会社	
	歯科衛生学シリーズ	歯科補綴学	医歯薬出版株式会社	
	歯科衛生学シリーズ	小児歯科学	医歯薬出版株式会社	
	歯科衛生学シリーズ	歯科放射線学	医歯薬出版株式会社	

授業科目	歯科診療補助実習Ⅳ 【実習】				学 科	歯科衛生士学科			
学年	3	学期	後期	単位	1	時間	30	担当教員	木村 寿子（歯科衛生士）

科目の特徴 (ねらい)	<p>歯科衛生士が臨床現場で活躍するために必要な診療の流れを具体的に理解できる。</p> <p>自分自身におかれた立場をわきまえ、業務に対する責任を身につける。</p> <p>診療に必要な器具や術式を理解し、説明できるようになる。</p>
成績評価	定期試験や学習態度を総合的に判断する。

回数	授業内容
1	歯科診療補助の概念～診療室の管理
2	医療安全と感染予防
3	保存修復
4	歯内療法①
5	歯内療法②
6	歯内療法③
7	歯科補綴①
8	歯科補綴②
9	歯周治療
10	口腔外科
11	小児歯科
12	矯正治療
13	診療中における事故と予防①
14	診療中における事故と予防②
15	まとめ

教科書	歯科衛生学シリーズ 歯科診療補助 医歯薬出版株式会社
-----	----------------------------

授業科目	臨地実習 I					【実習】	学 科	歯科衛生士学科
学年	2	学期	前期	単位	2	時間	90	担当教員

学科の特徴 (ねらい)	<p>臨地実習ではこれまでに学んだ基礎知識をもとに、歯科衛生士業務の修練を行うことを目的とする。</p> <p>①将来歯科衛生士としての歯科診療に関する知識、技術の習得</p> <p>②歯科医療における人間関係の理解</p> <p>③歯科保健指導・歯科予防処置・歯科診療補助などの知識・技術を応用し、歯科衛生士としての基礎を得る</p>
成績評価	臨地実習施設の指導教員による実習評価表に基づき、評価する。

回数	授業内容
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

教科書	
-----	--

授業科目	臨地実習Ⅱ				【実習】	学 科	歯科衛生士学科
学年	2	学期	後期	単位	8	時間	360
						担当教員	

学科の特徴 (ねらい)	<p>臨地実習ではこれまでに学んだ基礎知識をもとに、歯科衛生士業務の修練を行うことを目的とする。</p> <p>①将来歯科衛生士としての歯科診療に関する知識、技術の習得</p> <p>②歯科医療における人間関係の理解</p> <p>③歯科保健指導・歯科予防処置・歯科診療補助などの知識・技術を応用し、歯科衛生士としての基礎を得る</p>
成績評価	臨地実習施設の指導教員による実習評価表に基づき、評価する。

回数	授業内容
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

教科書	
-----	--

授業科目	臨地実習Ⅲ				【実習】	学 科	歯科衛生士学科
学年	3	学期	前期	単位	8	時間	360
						担当教員	

学科の特徴 (ねらい)	<p>臨地実習ではこれまでに学んだ基礎知識をもとに、歯科衛生士業務の修練を行うことを目的とする。</p> <p>①将来歯科衛生士としての歯科診療に関する知識、技術の習得</p> <p>②歯科医療における人間関係の理解</p> <p>③歯科保健指導・歯科予防処置・歯科診療補助などの知識・技術を応用し、歯科衛生士としての基礎を得る</p>
成績評価	臨地実習施設の指導教員による実習評価表に基づき、評価する。

回数	授業内容
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

教科書	
-----	--

授業科目	臨地実習Ⅳ 【実習】					学 科	歯科衛生士学科		
学年	3	学期	後期	単位	2	時間	90	担当教員	

学科の特徴 (ねらい)	<p>臨地実習ではこれまでに学んだ基礎知識をもとに、歯科衛生士業務の修練を行うことを目的とする。</p> <p>①将来歯科衛生士としての歯科診療に関する知識、技術の習得</p> <p>②歯科医療における人間関係の理解</p> <p>③歯科保健指導・歯科予防処置・歯科診療補助などの知識・技術を応用し、歯科衛生士としての基礎を得る</p>
成績評価	臨地実習施設の指導教員による実習評価表に基づき、評価する。

回数	授業内容
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

教科書	
-----	--

授業科目	基礎・臨床総合セミナー I (実習含) 【実習】				学 科	歯科衛生士学科			
学年	3	学期	前期	単位	1	時間	30	担当教員	石岡 道久

科目の特徴 (ねらい)	<p>歯周精密検査、口腔内写真、スタディモデルを採取し、その情報から衛生実地指導を計画し、実際に指導を行い実地指導の基本を学ぶ。</p> <p>さらに、最終的に実地指導の結果や指導内容がどの様であったか生徒自身が発表し生徒間の理解を深める。</p>
成績評価	中間テストと最終テストにて評価を行う。

回数	授業内容
1	オリエンテーション・相互衛生実地指導 I
2	相互衛生実地指導 II
3	相互衛生実地指導 III
4	相互衛生実地指導 IV
5	相互衛生実地指導 V
6	綿栓巻き実習
7	中間テスト(範囲はいままでの教科全部と服装チェック)
8	暫間冠制作実習(印象から下顎右側第一大臼歯の製作)
9	暫間冠制作実習(印象から下顎右側第一大臼歯の製作)
10	暫間冠制作実習(印象から上顎左側中切歯の製作)
11	暫間冠制作実習(印象から上顎左側中切歯の製作)
12	暫間冠制作実習(手練り法にて下顎右側第一大臼歯の製作)
13	暫間冠制作実習(手練り法にて下顎右側第一大臼歯の製作)
14	相互衛生実地指導発表まとめ
15	相互衛生実地指導結果発表

教科書	<p>器材準備マニュアル第6版 (口腔保健協会)</p> <p>歯科衛生学シリーズ 歯科機器 医歯薬出版株式会社</p> <p>歯科衛生学シリーズ 歯科材料 医歯薬出版株式会社</p>
-----	--

授業科目	基礎・臨床総合セミナーⅡ(実習含)【実習】				学 科	歯科衛生士学科			
学年	3	学期	後期	単位	1	時間	30	担当教員	山口 景子 (歯科衛生士)

科目の特徴 (ねらい)	<p>歯科衛生士の予防処置業務を臨床の現場で実践できるよう、実習を主とした知識・技術・対処法を習得する。</p> <p>使用する器具機材を理解し、技術の向上を目指しながら、業務の流れを考え行動できるよう実習を行う。</p>
成績評価	<p>定期試験、学習態度による総合判定とする。</p> <p>定期試験は100点満点とし、60点以上の場合、合格とする。</p>

回数	授業内容
1	消毒・滅菌について
2	患者誘導・医療面接
3	医療面接・問診表に基づいた情報収集
4	歯周組織検査
5	歯周疾患の指数評価
6	染め出し・PCR・TBI
7	超音波スケーラー相互実習
8	手用スケーラー相互実習
9	歯面研磨相互実習
10	歯面清掃実習(エアポリッシャー)
11	CPIプローブによる歯周基本検査
12	PMTTC相互実習
13	フッ化物の応用
14	歯科保健指導の基礎知識
15	まとめ

教科書	歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論 医歯薬出版株式会社 歯科衛生学シリーズ 歯科機器 医歯薬出版株式会社
-----	---

授業科目	インプラント治療学(講義) 【講義】				学 科	歯科衛生士学科			
学年	3	学期	後期	単位	3	時間	45	担当教員	山本 盛夫

科目の特徴 (ねらい)	インプラント外科手術のアシスタントワークについて理解するために必要な基礎知識を習得する。
成績評価	定期試験、学習態度による総合判定とする。 定期試験は100点満点とし、60点以上の場合、合格とする。

回数	授業内容	
1	歯周治療 I	歯周治療とは・歯周疾患の現状
2		正常な歯周組織の構造と機能
3		インプラント周囲組織の特徴
4		歯周病の分類、原因
5	歯周治療 II	歯周病の検査・歯周基本治療
6		根分岐部病変の治療
7		歯周外科治療
8	歯周治療 III	歯周治療における歯科衛生士の役割
9	歯周基本検査	EPP・BOPについて
10		超音波スケーラーについて
11		手用スケーラーについて
12		歯面研磨・PMTG
13		SRPとは
14		滅菌・消毒・スタンダードプリコーション
15		プラークコントロールの重要性
16	インプラント外科	インプラントの基礎知識
17		インプラントにおけるメンテナンスの重要性

18	インプラント外科	インプラント部のプロフェッショナルケア
19		ブローネマルクシステムについて
20	インプラント補綴	インプラント補綴物について
21		手指消毒・ガウンの付け方
22		ドレーピング
23	まとめ	メンテナンスまとめ

教科書	歯科衛生士のための成功へ導くインプラントアシスタント	医歯薬出版株式会社
-----	----------------------------	-----------

授業科目	インプラント治療学(実習) 【実習】				学 科	歯科衛生士学科			
学年	3	学期	後期	単位	3	時間	90	担当教員	山本 盛夫

科目の特徴 (ねらい)	インプラント外科手術のアシスタントワークについて理解するために必要な基礎知識を習得する。
成績評価	定期試験、学習態度による総合判定とする。 定期試験は100点満点とし、60点以上の場合、合格とする。

回数	授業内容	
1	歯周治療Ⅰ	歯周検査に必要な器具 症例による口腔内観察
2		症例による特徴 歯肉・歯周ポケットの検査
3		インプラントと歯周病の関係 歯周治療におけるメンテナンス、SPTの重要性
4		侵襲性歯周炎について 歯周病菌について
5	歯周治療Ⅱ	歯周治療の流れ 歯周基本治療の実際
6		ファーケーションプローブの使用法、模型による実習 様々なプローブ
7		歯周外科治療に用いる器材 相互実習用 問診表作成
8	歯周治療Ⅲ	医療面接相互実習 情報収集
9	歯周基本検査	口腔内観察PCR・TBI実習 プロービング相互実習
10		超音波スケーラー相互実習1 超音波スケーラー相互実習2
11		手用スケーラー相互実習1 手用スケーラー相互実習2
12		歯面研磨相互実習1 歯面研磨相互実習2
13		シャープニング シャープニング実習1
14		臨床における滅菌・消毒の実際 消毒薬・抗菌薬について
15		プラークコントロールの実際 消毒薬・抗菌薬について
16		インプラントの構造1 インプラントの構造2
17	インプラント外科	患者さんへのセルフケア指導の重要性・清掃用具選択 セルフケア相互実習

18	インプラント外科	PMTC相互実習1 PMTC相互実習2
19		埋入デモ 埋入実習
20	インプラント補綴	印象採得実習1 印象採得実習2
21		手指消毒実習 ガウン装置実習
22		ドレーピング相互実習1 ドレーピング相互実習2
23	まとめ	手指消毒テスト 総まとめ

教科書	歯科衛生士のための成功へ導くインプラントアシスタント	医歯薬出版株式会社
-----	----------------------------	-----------

授業科目	口腔機能予防学(講義)【講義】				学 科	歯科衛生士学科			
学年	3	学期	後期	単位	3	時間	45	担当教員	赤穂 和弘

科目の特徴 (ねらい)	口腔機能低下と口腔機能障害に応じた機能向上・機能低下予防に向けて、口腔保健管理と指導を行うために専門的知識、技術および態度を習得する。
成績評価	出席状況・授業態度・提出物・定期試験などの成績で総合評価する。

回数	授業内容	
1	摂食嚥下に関わる構造(解剖)	口腔・咽頭
2		喉頭・鼻腔
3		摂食嚥下に関与する筋
4		
5	摂食嚥下に関わる機能	摂食嚥下の5ステージ 認知期・準備期・口腔期・咽頭期・食堂期
6		
7		
8	発達期の摂食嚥下機能	乳児期～離乳期～幼児期
9		
10		
11	咬合および咀嚼機能の管理と評価	咬合と咀嚼
12		咬合・咀嚼と全身 咀嚼の評価と管理
13	病態別摂食嚥下障害	発達期
14		成人期・老年期
15	リスクマネジメント	全身管理の把握と対応・緊急時の対応・気管切開
16	摂食嚥下の評価	歯科衛生士が行う観察評価の実際
17		口腔のケア 相互実習

18	口腔のケア	口腔のケア 相互実習
19		
20	摂食嚥下訓練	直接訓練・間接訓練・相互実習
21		
22		
23		

教科書	歯科衛生士のための摂食嚥下リハビリテーション 医歯薬出版株式会社 歯科衛生士のための臨床インプラント講座 医歯薬出版株式会社 歯科衛生士のための歯科補綴 医歯薬出版株式会社
-----	--

授業科目	口腔機能予防学(実習)【実習】					学 科	歯科衛生士学科		
学年	3	学期	後期	単位	3	時間	90	担当教員	赤穂 和弘

科目の特徴 (ねらい)	口腔機能低下と口腔機能障害に応じた機能向上・機能低下予防に向けて、口腔保健管理と指導を行うために専門的知識、技術および態度を習得する。
成績評価	出席状況・授業態度・提出物・定期試験などの成績で総合評価する。

回数	授業内容	
1	高齢者とは	高齢者疑似体験
2	姿勢調整	体位確保・体位変換
3	リスクマネジメント	全身管理の把握と対応・緊急時の対応 バイタルサイン・誤嚥・窒息
4		
5		
6	栄養管理	栄養スクリーニング
7		食形態
8		嚥下調整食
9	咬合および咀嚼機能の管理と評価	咀嚼能力検査
10		咀嚼能率スコア法
11		サクソン法・アイヒナーの分類
12		口腔機能低下症の検査
13		
14	摂食嚥下の評価	歯科衛生士が行うスクリーニングテストの実際
15		
16	摂食嚥下障害者への口腔管理と制度	医療保険・介護保険
17		地域包括ケアシステム・地域連携・チーム医療

18	摂食嚥下リハビリテーションの実際 と歯科衛生士の役割	リハビリテーション医学とは 摂食嚥下リハビリテーションの進め方
19		口腔健康管理とは 口腔のケアとは
20	摂食嚥下の評価	歯科衛生士が行うスクリーニングテスト
21		歯科衛生士が行う観察評価
22	摂食嚥下訓練	摂食嚥下に対する訓練計画立案 摂食嚥下に対する食事指導
23		各病態に対する訓練法とその選択

教科書	歯科衛生士のための摂食嚥下リハビリテーション 医歯薬出版株式会社 歯科衛生士のための臨床インプラント講座 医歯薬出版株式会社 歯科衛生士のための歯科補綴 医歯薬出版株式会社
-----	--